YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TMAX

モーターサイクル

TMAX560 (XP560)
TMAX560 TECH MAX (XP560D)

BSV-28199-J0 ●

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
スマートフォン連携システム 4
各部の取り扱いと操作 5
日常点検 6
運転操作 7
点検整備 8
お車の手入れ 9
製品仕様 10
ユーザー情報 11
索引 12

商標について

Bluetooth®のワードマーク及びロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。
Android™、Google Play 及び Google Play ロゴは Google LLC の商標です。
iOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

JAU27264

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ **警 告**	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-6
- 環境・住民の方との調和のために 1-7

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- クルーズコントロールシステム (XP560D) 3-1
- ESS（緊急停止信号）システム 3-3
- TPMS（タイヤ空気圧監視システム）(XP560D) 3-4
- スマートキーシステムの概要 3-5
- スマートキーシステムの作動範囲 3-6
- スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い 3-7
- スマートキー操作のしかた 3-8
- スマートキーの電池交換のしかた 3-9
- ハンドルロック解除と車両の電源オン 3-11
- 車両の電源オフ 3-12
- 自動電源オフシステム 3-13
- ハンドルロックのかけかた 3-14
- メインスタンドロックのかけかた 3-14
- フューエルタンクキャップの開閉 3-15
- シートの開閉 3-16

スマートフォン連携システム 4-1
- スマートフィーチャー 4-1
- 初期設定 4-3
- ナビゲーションシステム：Garmin Motorize 4-6
- 電話 4-8
- 接続エラーが発生したときは 4-9

各部の取り扱いと操作 5-1
- ハンドルスイッチ 5-1
- 警告灯と表示灯 5-4
- ディスプレイ 5-6
- ポップアップメニューシステム 5-12
- D-mode（ドライブモード） 5-25
- リヤブレーキロックレバー 5-26
- ABS 5-26
- BC（ブレーキコントロール） 5-27
- トラクションコントロールシステム 5-28
- フューエルタンクキャップ 5-29
- 燃料 5-30
- 可変式ライダーバックレスト 5-30
- 書類入れ 5-31
- トランク 5-31
- ウインドスクリーン (XP560) 5-33
- バックミラー 5-35
- リヤクッションの調整 5-36
- ブレーキレバーの握り調整 5-37
- スタンディングハンドル 5-38
- DC コネクター 5-38
- USB ジャック 5-38
- サイドスタンド 5-39
- イグニッションサーキットカットオフシステム 5-39

日常点検 6-1
- 日常点検の実施 6-1
- 日常点検箇所／点検内容 6-1

運転操作 7-1
- ならし運転 7-1
- エンジン始動 7-1
- 発進 7-2
- 加速と減速 7-3
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- サービスツール 8-2
- カバーの取り外し、取り付け 8-2
- エンジンオイル 8-4
- エンジンのかかり具合、異音の点検 8-6
- 低速、加速の状態の点検 8-6
- 冷却水 8-6
- エアクリーナーエレメントの交換 8-8
- タイヤ 8-9
- ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検 8-11
- リヤブレーキロックのきき具合 8-11
- ブレーキパッドの点検 8-11
- ブレーキ液量の点検 8-12
- ドライブベルト 8-12

車体各部の給油脂状態の点検.....8-13
バッテリー 8-14
ヒューズ交換.....8-15
灯火装置および方向指示灯の点検...8-18
運行において異常が認められた
箇所の点検.....8-19
こんなときは.....8-19
スマートキーシステムのエマー
ジェンシーモード.....8-21

お車の手入れ 9-1
洗車.....9-1
キャストホイールの取り扱い.....9-2
ウインドスクリーンの取り扱い.....9-3
保管のしかた.....9-3
アフターケア用品について 9-4

製品仕様..... 10-1

ユーザー情報 11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル(別売)の紹介...11-2
車両情報 11-2

索引..... 12-1

安全運転のために

JAU27281

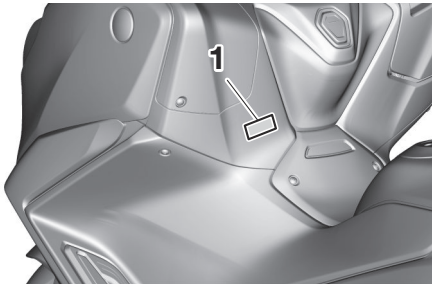
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU67232

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グ

ローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。

- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

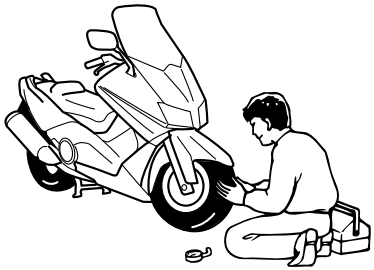
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。 運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



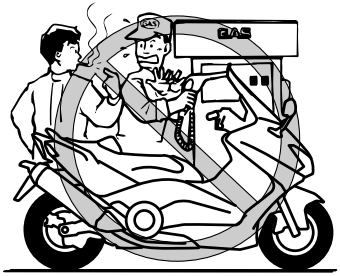
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検·整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

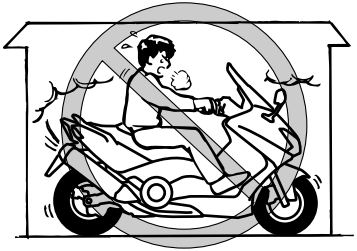
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

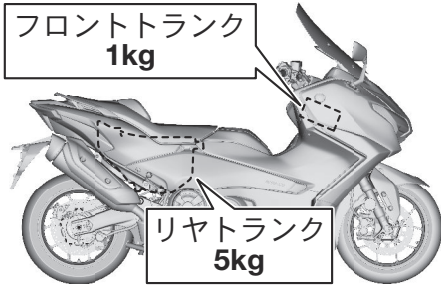


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは



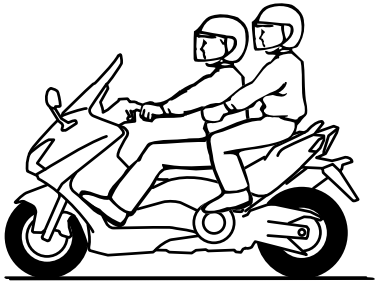
- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操

縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。

- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

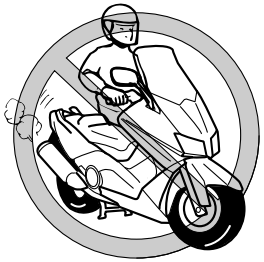
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



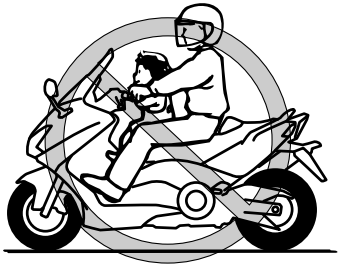
押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。
やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。
スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は法令により 2 人乗りはできません。
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。
タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

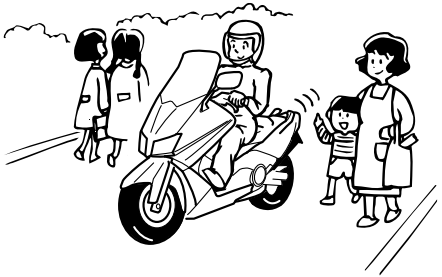


JAU66240

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



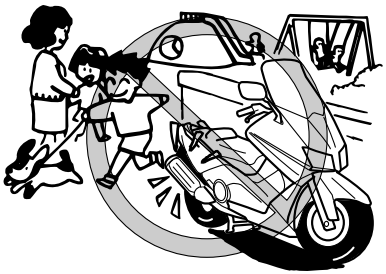
駐車

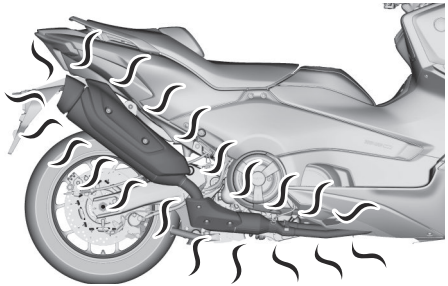
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、スマートキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。 また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**



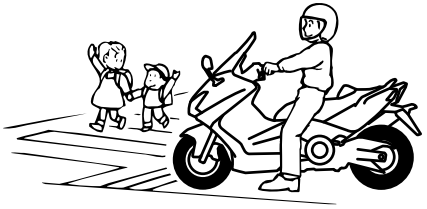


昼間はヘッドライトを下向きに

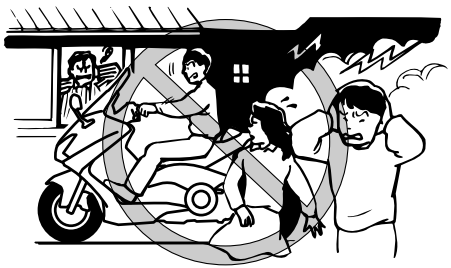
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27651
環境・住民の方との調和のために

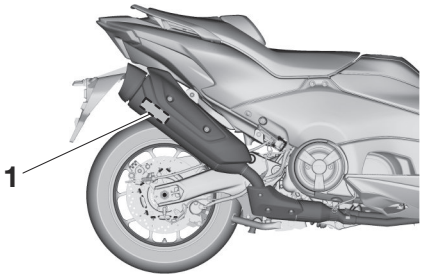
住民の方への思いやり
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

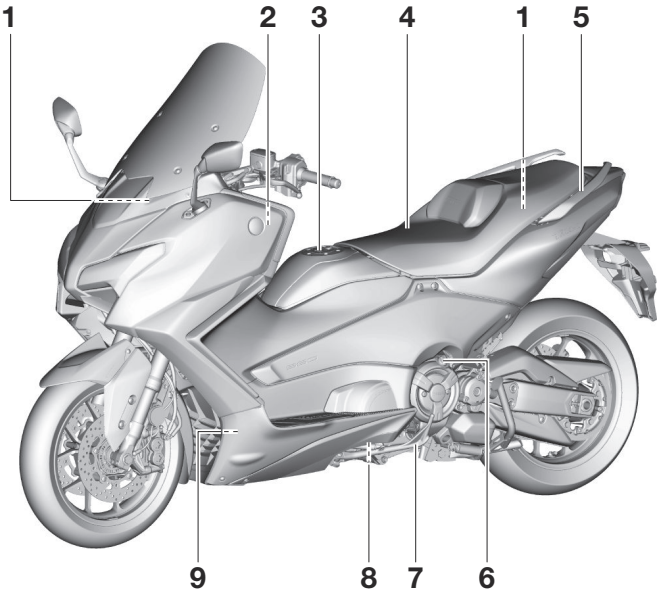


1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面



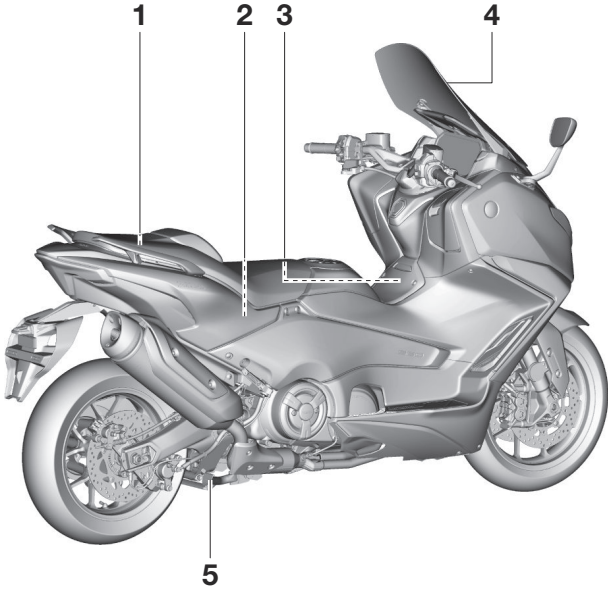
1. ヒューズ（P8-15）
2. バッテリー（P8-14）
3. フューエルタンクキャップ（P5-29/P3-15）
4. シート (P3-16)
5. スタンディングハンドル（P5-38/P7-2）
6. オイル注入口（P8-4）
7. サイドスタンド（P5-39）
8. エンジンオイル点検窓（P8-4）
9. 冷却水点検窓 （P8-6）

各部の名称

JAU10421

右側面

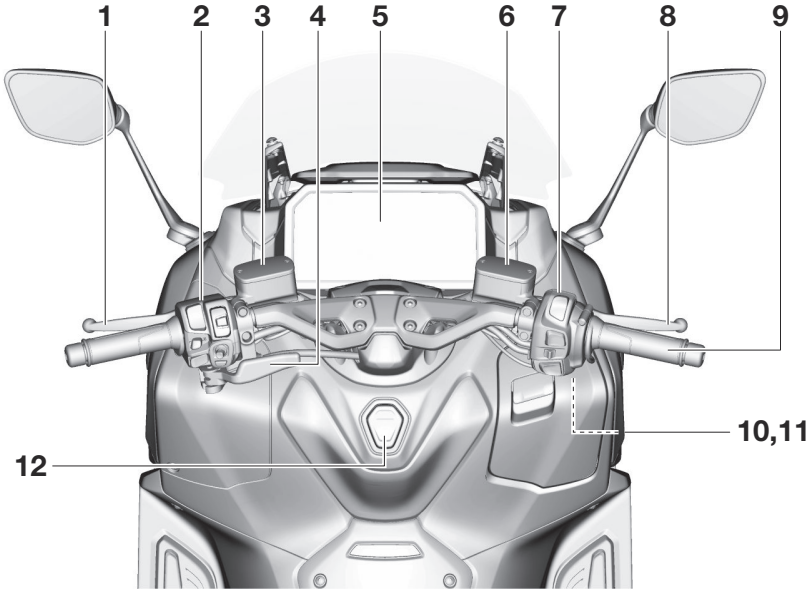
2



1. サービスツール（P8-2）
2. リヤトランク（P5-31）
3. エアクリーナーエレメント（P 8-8）
4. ウインドスクリーン (P5-33/P8-15)
5. メインスタンド

JAU10431

運転装置と計器類



1. リヤブレーキレバー（P8-11）
2. ハンドルスイッチ（左）（P5-1）
3. リヤブレーキリザーバータンク（P8-12）
4. リヤブレーキロックレバー （P5-26/P8-11）
5. マルチファンクションメーター（P5-6）
6. フロントブレーキリザーバータンク（P8-12）
7. ハンドルスイッチ（右）（P5-1）
8. フロントブレーキレバー（P8-11）
9. スロットルグリップ（P7-3）
10. フロントトランク（P5-31）
11. USB ジャック (P5-38)
12. センタースイッチ (P3-5)

JAUA3922

クルーズコントロールシステム (XP560D)

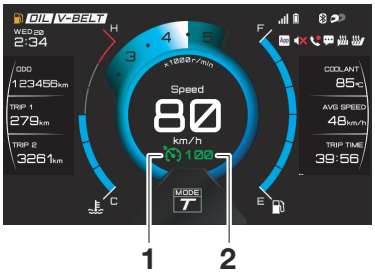
この車は、一定のスピードを維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。法定速度を守って走行してください。

クルーズコントロールシステムは、約 50 km/h～140 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

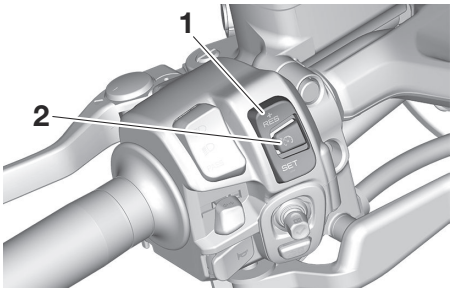
JWA22990

⚠ 警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステムアイコン “ ” が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロールシステムアイコン “ ” / “ ”
2. クルーズコントロール速度設定



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+/SET–”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “ ”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール電源スイッチ “ ” を押します。クルーズコントロールシステムアイコン “ ” が点灯します。
2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させると現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定されます。クルーズコントロールシステムアイコンが緑色に変わり、その横に設定されたクルージングスピードが表示されます。

要 点

最小化された表示では、メニューシステムまたはナビゲーション機能が開いている場合、水温計の代わりにクルーズコントロールシステムアイコンと設定されたクルージングスピードが表示されます。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設

定したクルージングスピードが減少します。

要　点

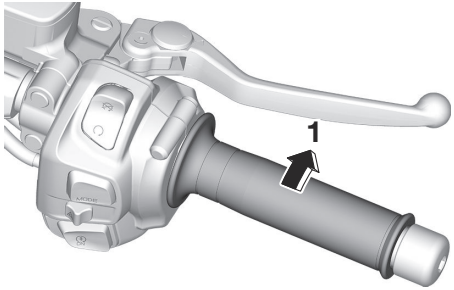
設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 1.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側または“SET-”側を押したまま保持すると、設定スピードが約 10.0 km/h ずつ増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの“SET-”側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止／オフ

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロールシステムアイコンが白色“ ”に変わります。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

クルーズコントロールシステムをオフにするには、クルーズコントロール電源スイッチ“ ”を押します。システムがオフになると、クルーズコントロールシステムアイコン“ ”が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムまたは車両の電源をオフにすると、以前に設定したクルージングスピードが消去されます。新しいクルージングスピードが設定されるまで、リジューム機能は使用できません。

リジューム機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押します。走行スピードが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロールシステムアイコンが緑色“ ”に変わります。

JWA23010

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、リジューム機能を使用することは危険です。

要　点

システムの作動中に電源スイッチを押したり、車両の電源をオフにすると、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。リジューム機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステ

ムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- エンジンストップスイッチを“⊠”にした場合。
- エンジンが停止した場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステムアイコンが白色“ ”に変わり、4秒間点滅してから消灯します。

クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調節することはできません。スピードを落とすにはブレーキ操作が必要ですが、ブレーキをかけるとクルーズコントロールシステムは停止します。

JAUA1773

ESS（緊急停止信号）システム

急減速が発生した場合、このシステムが自動的に作動し、すべての方向指示灯が急速に点滅します。

これにより、車両が急速に減速していることを周囲の車両にさらに警告します。

ESS システムは、以下の条件で解除されます。

- ブレーキを解除したとき
- 急減速が検出されなくなったとき

JWA22680

⚠警 告

ESS は衝突防止システムではありません。不必要な急ブレーキは避け、安全運転をこころがけてください。

要　点

- ESS システムは、車両が時速 50 km 以上で走行しているときに急ブレーキを検知した場合にのみ作動します。
- ハザードランプがすでに作動しているときは、ESS は作動しません。
- 方向指示灯のひとつがすでに点滅しているときに ESS が作動した場合、ESS が優先され、すべての方向指示灯が急速に点滅します。

● ABS 警告灯が点灯している場合、ESS は作動しません。

JAUA3935

TPMS（タイヤ空気圧監視システム）（XP560D）

この車両には TPMS が搭載されています。タイヤの空気圧が低いと検知された場合に、タイヤ空気圧警告灯が点灯します。前後のタイヤ空気圧はそれぞれインフォメーションディスプレイで選択表示できます。（5-9 ページ参照）

JWA22850

⚠ 警 告

インフォメーションディスプレイに表示される空気圧は、走行中のタイヤの温度に影響を受けるため、参考情報としてご利用ください。運行前点検の際は、必ずタイヤが冷えているときに、タイヤゲージで点検してください。

要　点

- センサーの電池残量が少なくなった場合、またはセンサーに異常が検知されると、タイヤ空気圧警告灯“(!)”が点滅します。タイヤ空気圧警告灯“(!)”が点滅した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 車両の電源をオンにすると、インフォメーションディスプレイの空気圧は、走行が開始されるまで“---”を表示します。

JCA28720

⚠ 警 告

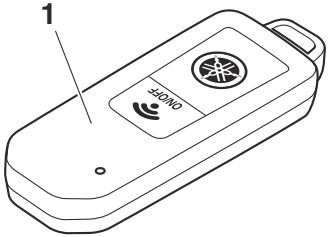
- **専用タイヤのみを使用してください。他のタイヤを使用すると、TPMS の精度に影響を与え、センサーや電池に不具合が生じる場合があります。**
- **タイヤ交換はヤマハ販売店のみで行ってください。TPMS の精度に影響を与え、センサーや電池に不具合が生じる場合があります。**
- **TPMS の電池を充電したり、再利用しないでください。**
- **電池を分解したり、燃やしたりしないでください。**
- **地域の法律や規則に従って電池を廃棄してください。**

JAUA3941

スマートキーシステムの概要

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。

- 電源のオン／オフ
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除／施錠
- シートロックの解除



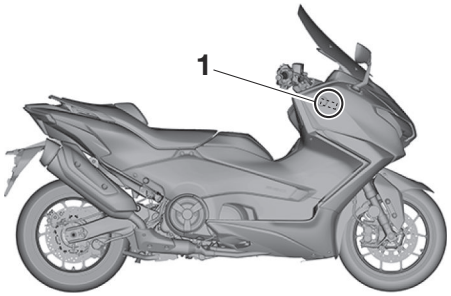
1. スマートキー

JWA21070

⚠警 告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

スマートキーシステムは、フロントトランクの前側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

JCA27770

注 意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源のオンなどができないことがあります。

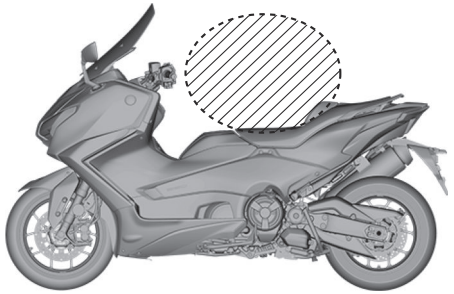
- **強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**
- **スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。**
- **スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。**
- **スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。**
- **近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。**

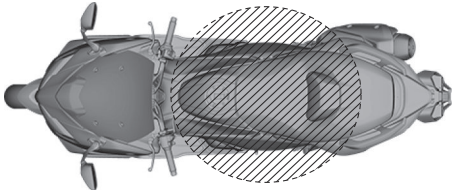
このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときは、エマージェンシーモード（8-21 ページ参照）の操作を行ってください。

スマートキーシステムの作動範囲

JAUA3950

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、以下に示す図の通りです。





要　点

- スマートキーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が広くなったり狭くなったりすることがあります。
- スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- スマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- スマートキーの持ち方により、作動しにくいことがあります。
- スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーシステムが作動しない場合は、スマートキーのロック／アンロック状態を確認してください。
- 車とスマートキーが通信できない状態でセンタースイッチまたは、“ON”スイッチを連続操作したときは、盗難やいたずら目的の操作とみなし、一定の時間が経過するまで各スイッチの操作を受け付けなくなります。
- リヤトランク内やフロントトランク内は、スマートキーの作動範囲外となる場合があります。また、リヤトランク内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキーシステムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーを車に置き忘れると、車両盗難につながるおそれがあります。車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックを掛け、スマートキーを持って離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

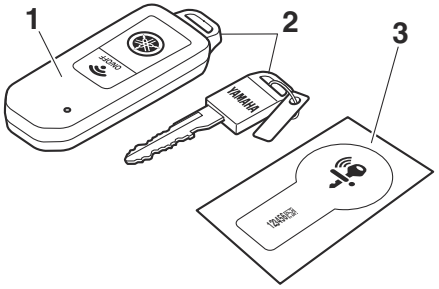
JAUA3962

JWA17952

⚠警 告

- **スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。**
- **スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロックの解除、ハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。**

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個（組み込まれたメカニカルキー 1 本を含む）、メカニカルキー 1 本、ID 番号カード 1 枚が付属しています。メカニカルキーと ID 番号カードは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID 番号カードの紛失に備えて、**ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。**



1. スマートキー
2. メカニカルキー
3. ID 番号カード

- スマートキーと ID 番号カード（ID 番号の控えを含む）を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- 緊急時にはスマートキーの ID 番号（6 桁数字）を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、8-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JCA15771

注 意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

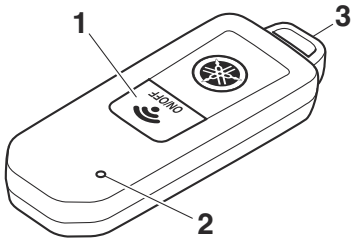
- **無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **重いものを上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。**
- **火であぶったりしないでください。**
- **削ったり、穴を開けたりしないでください。**
- **超音波洗浄器などで洗浄しないでください。**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。**
- **テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。**
- **低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。**
- **ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。**
- **シールを貼らないでください。**

要　点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。（全く使用しなくても電池は消耗します。）
- 車両の電源をオンにした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅（約 20 秒）した場合は、新しい電池に交換してください。（電池交換のしかたは、3-9 ページ参照）
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。（例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき）
- スマートキーのロック／アンロックスイッチを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大 6 個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

JAUA3970

スマートキー操作のしかた



1. ロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”
2. スマートキー表示ランプ
3. メカニカルキー

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。

スマートキーのロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”を長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）

- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロックを確認する

スマートキーのロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”を短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・アンロックになっています。
- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・ロックになっています。

メカニカルキーを使用するとき

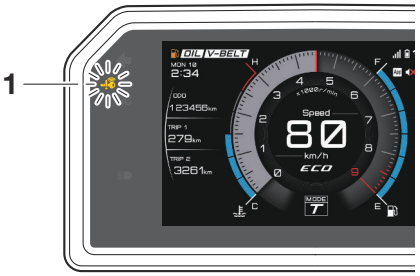
メカニカルキーをスマートキー本体から引き抜きます。使用後はメカニカルキーを元の位置へ押し戻します。

JAUA2543

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているので、新しい電池と交換してください。

- 車両の電源をオンにしたときに、スマートキーシステム表示灯が数秒間点滅するとき。
- スマートキーの“ON/OFF”スイッチを押しても作動しないとき。



1. スマートキーシステム表示灯“ ”

JWA22830

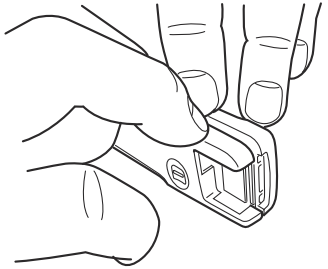
⚠ 警 告

この電池にはリチウム金属や有機電解質などの可燃性物質が含まれています。安全に使用するために、次のことを守ってください。

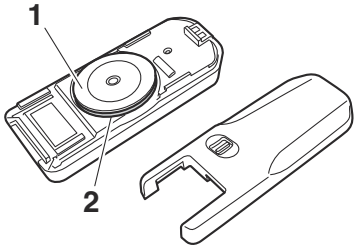
- **ショートさせないでください。**
- **充電しないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **変形させたり損傷させたりしないでください。**
- **改造しないでください。**

電池交換のしかた

1. 図のように、スマートキーのケースを慎重に開けます。開かない場合は、ヤマハ販売店に電池交換を依頼してください。



2. カバーと O リングを取り外します。



1. カバー
2. O リング

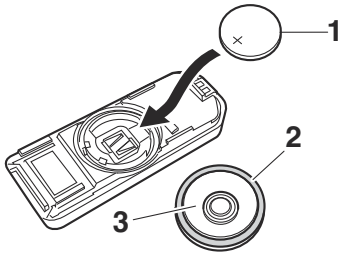
3. 電池を取り外します。

要　点

取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。

4. 電池の向き（表裏）に注意し、図のようにプラス面を上に向けて、新しい電池を取り付けてください。

使用電池：
ボタン電池　CR2025×1 個



1. 電池
2. O リング
3. カバー

5. O リングとカバーを取り付けます。
6. スマートキーのケースを閉じます。

JCA24011

注 意

- **電池交換の際、スマートキー本体に無理な力を加えないでください。**
- **キーを開けるときは、ドライバーや硬いものでこじ開けないでください。**
- **防水シール部分の傷つきや、汚損に注意してください。**
- **内部の回路や端子に触れないでください。故障の原因となります。**
- **電池が正しく取り付けられているか確認してください。電池の＋極の向きが合っているか確認してください。**

JWA20632

⚠警 告

バッテリーを誤って交換すると、爆発のおそれがあります

- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**
- **バッテリーの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。**
- **バッテリーを廃棄する際は、焼却や断裁を絶対にしないでください。**
- **バッテリーを誤って廃棄したり、高温（100°C 以上）に加熱したりすると、バッテリー内部にガスが発生し、電解液の漏れ、内部短絡（ショート）、発熱、爆発、および激しく発光するおそれがあります。**

電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。

バッテリー液に触れないでください。化学薬品による火傷の危険があります

- **この製品にはボタン電池が含まれています。ボタン電池を飲み込んだり、体内に入れると、重度の火傷を負う可能性があり、**

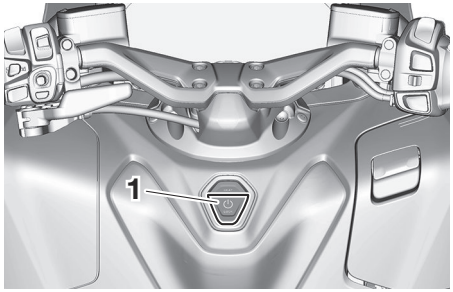
死亡につながるおそれがあります。新しい電池や使用済みの電池は、子供の手の届かない場所に保管してください。

- **スマートキーのケースがしっかりと閉じない場合は、製品の使用を中止して、お子さまの手の届かない場所に保管してください。**
- **ボタン電池を誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。**

JAUA3980

ハンドルロック解除と車両の電源オン

1. アンロックの状態にしたスマートキーを持って、車に近づき、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を短押しします。



1. センタースイッチ“⏻/LOCK”部分

2. スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴り、メーターのスマートキーシステム表示灯が短く点灯します。全てのロックが自動的に解除されます。

要　点

- ハンドルに力が加わっているときなど、ハンドルロックが自動解除できない場合は、スマートキーシステム表示灯がゆっくり点滅します。このとき、ハンドルロックは正常に解除されていない状態になり、電源はオンになりません。この状態から電源をオンにするには、ハンドルを少し左右に動かしてロックを解除したあと、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を再度押します。
- メインスタンドロックが自動解除できない場合も、スマートキーシステム表示灯がゆっくり点滅します。このとき、メインスタンドロックは正常に解除されていない状態になり、電源はオンになりません。この状態から電源をオンにするには、車両を前後に少しゆすってロックを解除したあと、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を再度押します。

JCA15826

注 意

ハンドルロックまたはメインスタンドロックが解除されず、スマートキーシステム表示灯が点滅をしている場合は、スマートキーシステムの故障が考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

3. 全てのロックが解除されると、車両の電源がオンになり、マルチファンクションディスプレイが点灯します。
4. エンジンを始動できます。(7-1

ページ参照）

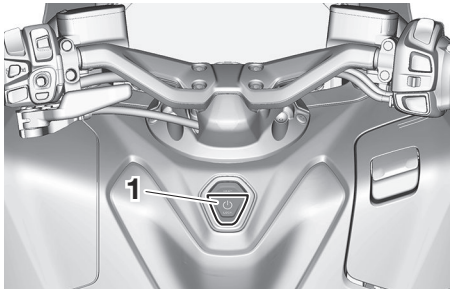
要　点

- バッテリーを取り外して再接続したとき、または約一週間電源をオンにしなかった場合、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押したり、スマートキーを使用しても電源がオンにならない場合があります。その場合は、“ON”スイッチを押して電源をオンにしてください。
- スマートキーを使わずに電源をオンにする操作については、8-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAUA3990

車両の電源オフ

車両の電源をオフにしてエンジンを停止するには、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を短押しします。



1. センタースイッチ“⏻/LOCK”部分

スマートキーが認証されると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴り、車両の電源がオフになったことをお知らせします。フューエルタンクキャップのロックが解除されます。

要　点

- 車両の電源をオフする操作は、必ず運転者自身の手で行い、電源がオフになったことを確認してください。
- スマートキーを持った運転者がスマートキーシステムの作動範囲外に移動しても、車両の電源は自動的にオフにはなりません。
- 走行中は、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分で車両の電源をオフにする操作を行うことができません。電源をオフにする操作を行うときは、必ず車を安全な場所に停車して行ってください。

センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押して車両の電源をオフにする操作時に作動範囲内にスマートキーがないと、車の電源はオフにならずにアラームが 10 秒鳴り続け、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅して異常を知らせます。スマートキーの所在や状態を確認してください。

要　点

スマートキーが無くても、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅している間に、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押してもう一度電源オフの操作を行えば、電源のオフは可能です。

自動ロック機能

センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を用いてエンジンを停止した後、および車両の電源がオンからオフになった時はいつでも、フューエルタンクキャップのロックが解除

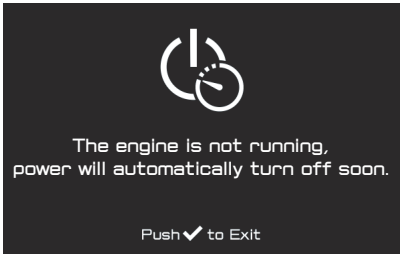
されます。フューエルタンクキャップは約2分後に再度ロックされます。

JAUA4002

自動電源オフシステム

自動電源オフシステムは、エンジン停止後に車両の電源がオンのままで40分を経過すると、自動的に車両の電源をオフにして、不要なバッテリー放電を防止します。

エンジン停止後35分で、“The engine is not running, power will automatically turn off soon.”（エンジンがかかっていません、間もなく電源がオフになります）というメッセージがディスプレイに20秒間表示されます。

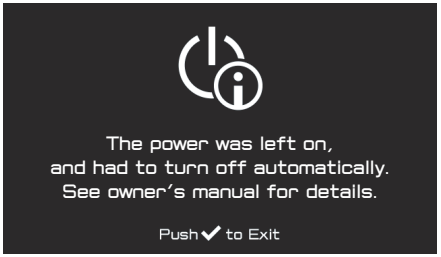


更に5分を経過すると、自動的に電源がオフになります。

要　点

- センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押すと、自動電源オフシステムは40分のカウントを停止し、再度カウントを始めます。
- この車両にはエンジン自動停止システムも搭載されています。（7-2ページ参照）

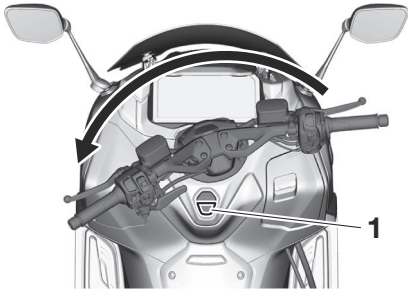
自動電源オフシステムによって車両の電源がオフになると、次回電源をオンにする際に、“The power was left on, and had to turn off automatically. See owner’s manual for details.”（電源が入ったままになっており、自動的にオフにする必要がありました。詳細は取扱説明書を参照ください。）と表示されます。



JAUA4010

ハンドルロックのかけかた

車両の電源をオフにし、ハンドルを左へいっぱいに切り、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分をハンドルロックがかかるまで押します。



1. センタースイッチ“⏻/LOCK”部分

要　点

- 正常にハンドルロックがかかると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります。
- ハンドルロックが正しくかからない場合、アラームが 3 秒鳴り続け、スマートキーシステム表示灯が点滅します。ハンドルロックのロックバーが突き当たっていることがありますので、もう一度ハンドルを左へいっぱいに切り、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を長押しし、ハンドルロックを試みてください。
- メインスタンドを立てた状態でハンドルロックをかけると、メインスタンドロックも同時にかかります。（3-14 ページ参照）

JWA14742

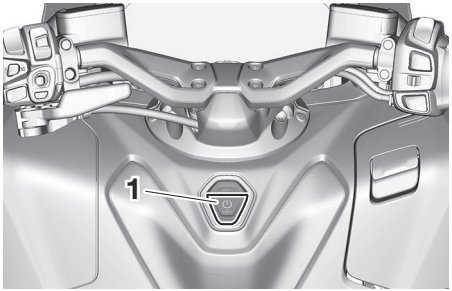
⚠ 警 告

車が動いている状態では、ハンドルロック操作をしないでください。

JAUA4020

メインスタンドロックのかけかた

車両を平坦で安定する場所に停車させてメインスタンドを立て、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分をメインスタンドロックがかかるまで押します。



1. センタースイッチ“⏻/LOCK”部分

要　点

- 正常にメインスタンドロックがかかると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります。
- メインスタンドロックが正しくかからない場合、アラームが 3 秒鳴り続け、スマートキーシステム表示灯が点滅します。車両を前後に少しゆすってみた後、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を長押しし、メインスタンドロックを試みてください。
- ハンドルを左へいっぱいに切った状態でメインスタンドロックをかけると、ハンド

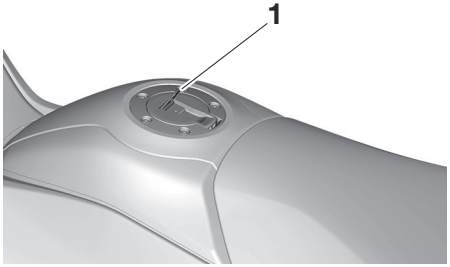
ルロックも同時にかかります。（3-14 ページ参照）

JAUA4030

フューエルタンクキャップの開閉

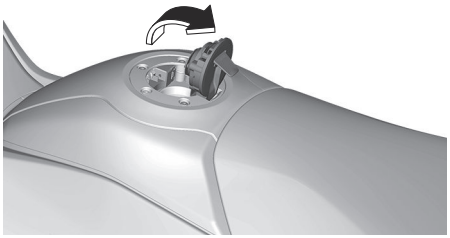
フューエルタンクキャップの開けかた

1. 車両の電源をオフにしてから、2 分以内にフューエルタンクキャップレバーを引き上げます。



1. フューエルタンクキャップレバー

2. フューエルタンクキャップを開けます。



要　点

- 車両の電源をオフにしてから 2 分後に、フューエルタンクキャップのロックがかかります。その場合は、フューエルタンクキャップレバーを引き上げると、スマートキーシステムと認証が行われます。
  フューエルタンクキャップレバーを再度引き上げて、フューエルタンクキャップを開けます。
- ロックが解除されてから 2 分以内にフューエルタンクキャップのロックをかけるには、ハンドルロックまたはメインスタンドロックをかけてください。（フューエルタンクキャップも同時にロックがかかります。）

フューエルタンクキャップの閉めかた

フューエルタンクキャップを元の位置に押します。

要　点

- フューエルタンクキャップが開いたまま電源をオンにすると、ブザーが鳴ります。ブザーは、フューエルタンクキャップを閉めるか、30 秒経過すると止まります。
- 短時間に 5 回連続で操作をすると、フューエルタンクキャップのロックがかかり、ス

マートキーシステム表示灯が 3 秒間点滅します。最後の操作から 5 分後にロックが解除されます。

JWA21301

⚠警 告

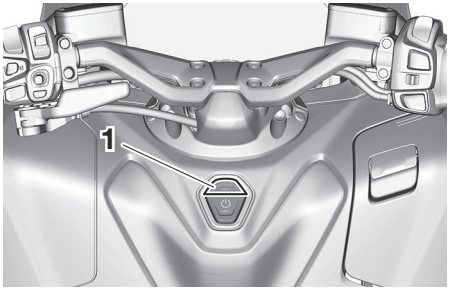
車両を運転する前に、フューエルタンクキャップが確実に閉じられていることを確認してください。燃料漏れは火災のおそれがあり危険です。

シートの開閉

JAUA4040

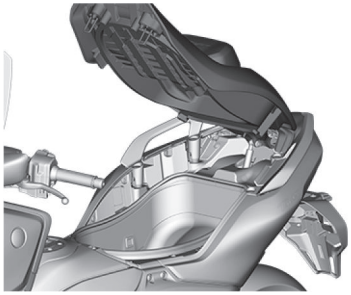
シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. アンロックの状態にしたスマートキーを持って車に近づき、センタースイッチの“SEAT”部分を短押しします。



1. センタースイッチ“SEAT”部分

3. スマートキーが認証されると、シートのロックが解除されます。
4. シートの前方を持ち上げて開けます。



JWA21311

⚠警 告

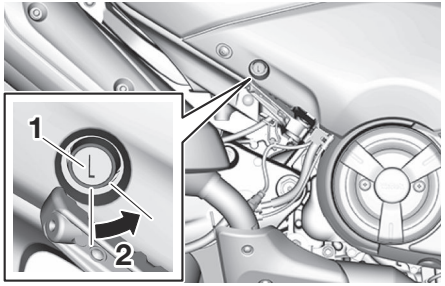
車が動いている状態では、センタースイッチの“SEAT”部分を操作をしないでください。

シートの閉めかた

シートを下ろし、シートの着座部分を押さえてロックします。

要　点

- リヤトランク灯は、シートを開いてから 2 分間点灯したままになります。
- 発進前に、シートが確実にロックされているか確認してください。
- 緊急時には、メカニカルキーでシートを開けることができます。



1. シートロック
2. 解除

JAUA4071

スマートフィーチャー

JWA21412

⚠警 告

- **走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **設定を変更する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

この車両はスマートフォン連携システムを搭載しており、CCU（コミュニケーションコントロールユニット）と Yamaha Motorcycle Connect アプリを介して接続されたスマートフォンを利用して、いろいろなスマートフィーチャーを使用できます。

- GPS ナビゲーション（USB を介して、Garmin Motorize アプリとの接続が必要です）(ページ 4-6)
- 電話（ページ 4-8）
- オーディオプレイヤー（ページ 5-18）
- 通知（ページ 5-20）
- 天気（ページ 5-20）
- 時計（ページ 5-22）
- 言語設定（ページ 4-2）

要　点

- お使いのスマートフォンによっては、一部の機能が利用できない場合があります。
- 一部の音楽および SNS アプリケーションは、他のアプリケーションと組み合わせると正常に動作しない場合があります。
- 車両の電源をオンにしてから CCU が起動するまでに約 30 秒かかります。この間、“App アプリケーション”やスマートフィーチャーは利用できず、メニューはグレーで表示されます。
- バッテリーの取り外し／再接続後は、CCU が起動するまでに約 1 分かかります。



1

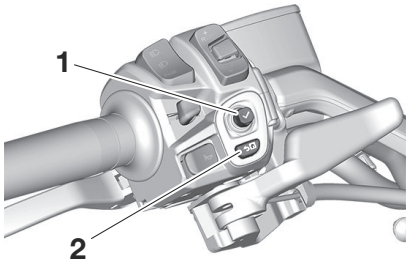
1. ポップアップメニュー

スマートフィーチャーへは、メインディスプレイ下側にあるポップアップメニューから接続できます。（5-12 ページ参照）メニューと関連するすべての機能は、ジョイスティックとホームボタン“⌂”を使用して操作します。（5-3 ページ参照）
操作をする前に、基本的なメニューの操作方法をお読みください。その後、スマートフォンで初期設定と CCU への接続を完了してください。

4

スマートフォン連携システム

ジョイスティック／ホームボタン



1. ジョイスティック
2. ホームボタン“⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用してジョイスティックとホームボタンの使い方を説明しています。

“⌂”を短押し	ホームボタンを短く押します
“⌂”を長押し	ホームボタンを 1 秒間押します
“✔”を短押し	ジョイスティックを短く押します
“✔”を長押し	ジョイスティックを 1 秒間押します
ジョイスティックを操作	ジョイスティックを上下左右に動かします

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- “⌂”を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔”を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “✔”を短押しして選択した項目を実行します。
- “⌂”を短押しすると、前の画面に戻ります。
- “⌂”を長押ししてメニューを閉じます。

要　点

- メニュー項目に“˄”（矢印）が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、ハイライト表示された機能の表示ができます。
- 一部のメニューには、“<”（戻る）が表示されます。その場合は、ジョイスティックを左に操作して前の画面に戻ることができます。
- 一部のメニューには、“>”（進む）が表示されます。メニューがハイライト表示されているときに、ジョイスティックを右に操作するか、“✔”を短押しすると、次の画面を開くことができます。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ

Yamaha Motorcycle Connect アプリは、CCU とスマートフォンを接続するために必要な無料アプリです。アプリは名前で検索して、スマートフォンのアプリケーションストアからダウンロードできます。

要　点

- Yamaha Motorcycle Connect を使用するには、Yamaha Motorcycle Connect の利用規約に同意する必要があります。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ナビゲーションやその他の機能では、ス

マートフォンで GPS のアクセス許可を“常に許可”に設定する必要があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth 検出、アプリのアクセス許可、およびその他の設定については、個々のスマートフォンで手順を参照してください。

JAUA4083

初期設定

スマートフィーチャーを使用するには

1. アプリケーションストアからスマートフォンに Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、インストールします。インストールを完了し、Bluetooth で CCU とスマートフォンをペアリングし接続します。
2. ナビゲーションシステムを使用するには、アプリケーションストアからスマートフォンに Garmin Motorize アプリをダウンロードして、インストールします。インストールを完了し、USB 経由で CCU に接続します。
3. オーディオ、電話、ナビゲーションシステムを使用するには、Bluetooth ヘッドセットを CCU にペアリングし接続します。

Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング

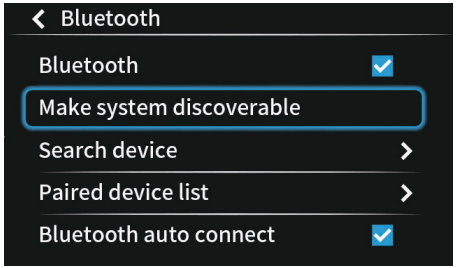
JCAN0150

注 意

次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. スマートフォンに Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、インストールします。
2. メニューシステムで、“App Applications（アプリケーション）” → “Settings（設定）” → “Connections（コネクション）” → “Bluetooth”に移動します。
3. “Bluetooth”の横に青いチェックマークが付いていることを確認します。そして“Make system discoverable（デバイス検出モード）”を選択します。



Yamaha Motorcycle Connect アプ

リを開き、ペアリングディスプレイに移動します。アプリの指示に従って CCU を検出し、ペアリングし接続します。

要　点

CCU を検出した後、3 分以内にペアリングを完了する必要があり、完了しないと手順が失敗になります。失敗した場合は、“Make system discoverable（デバイス検出モード）”を再度選択して再試行してください。

4. Bluetooth のペアリングをするには、車両のディスプレイに表示されているパスキーと同じパスキーがスマートフォンに表示されます。パスキーが同じであることを確認したら、ジョイスティックを操作して“Pair（ペア）”を選択し、“✔”を短く押します。

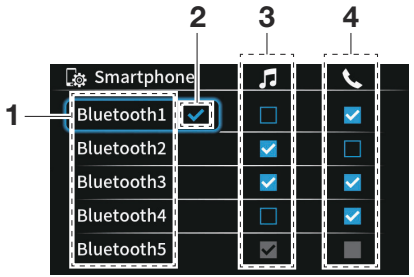


5. スマートフォン側でペアリングを許可すると、Bluetooth の接続が完了し、“Paired device list（登録済みデバイス）”画面にスマートフォン名が表示されます。

要　点

- パスキーが表示されたら、30 秒以内にペアリングを完了する必要があり、完了しないと時間切れになります。失敗した場合は、“Make system discoverable（デバイス検出モード）”を再度選択して再試行してください。
- 接続されると、メインディスプレイの上部に Yamaha Motorcycle Connect アプリ表示“App”が点灯します。

6. ペアリングが成功すると、車両のディスプレイが“Paired device list（登録済みデバイス）”に切り替わり、画面にスマートフォン名が表示されます。



1. デバイス名
2. 接続中
3. オーディオ用接続
4. 電話用接続

7. Bluetooth の接続が完了すると、“Audio”、“Telephone”、“Notifications”、“Weather”の機能が使用可能になります。

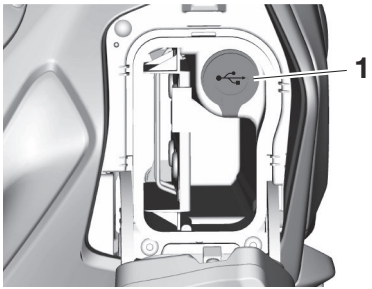


要　点

- 連絡先情報を車両と共有するためのリクエストがスマートフォンに表示されます。CCU へのデータアップロードや通知へのアクセス許可を拒否した場合は、後でスマートフォンの設定から行うことができます。
- Bluetooth のペアリング履歴がスマートフォンから削除された場合、再度ペアリングを正常に行うには、一度“Paired device list（登録済みデバイス）”から対応するスマートフォン名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴が CCU の“Paired device list（登録済みデバイス）”から削除された場合、再度ペアリングを正常に行うには、一度スマートフォンのペアリング履歴からから車両の CCU 名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- 車両が Yamaha Motorcycle Connect アプリと初めてペアリングされると、“App アプリケーション”メニューの言語がアプリで選択された言語に合わせて変更されます。最初にインストールしたとき、アプリはスマートフォンのシステム言語を採用します。言語が CCU でサポートされていない場合は、自動的に英語が選択されます。

USB 接続

フロントトランクにある USB ジャックにスマートフォンを接続します。（5-38 ページ参照）



1. USB ジャック

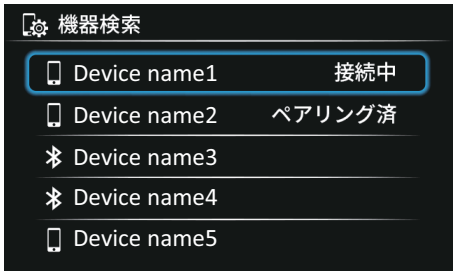
JCA27740

注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

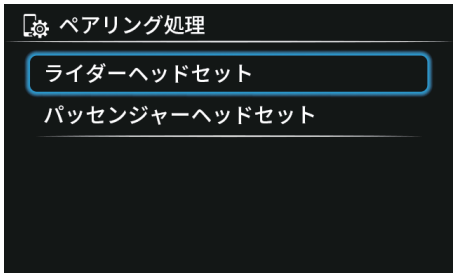
Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. 接続するヘッドセットを Bluetooth で検出可能な設定にします。
2. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “設定” → “コネクション” → “Bluetooth” → “機器検索” → “ヘッドセット”

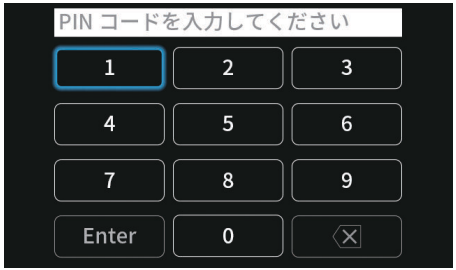


少しおいて、使用できるヘッドセットのデバイス名がリストに表示されます。リストからペアリングするヘッドセットを選択します。

3. ライダーヘッドセットまたはパッセンジャーヘッドセットのいずれかを選択します。



この時点で、一部のヘッドセットではPIN コードの入力が必要になる場合があります。



接続すると、ディスプレイが“登録済みデバイス”に切り替わり、ヘッドセットアイコン“”が表示されます。

要　点

ヘッドセットのペアリング完了後でも、“登録済みデバイス”からライダーまたはパッセンジャーへ設定を切り替えることができます。(5-16 ページ参照)

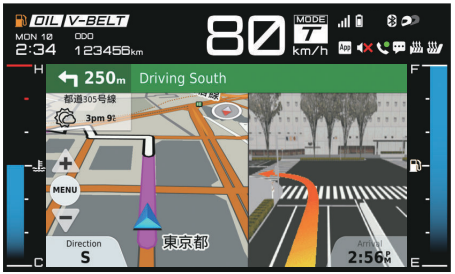
JAUA4092

ナビゲーションシステム：Garmin Motorize

JWA21401

⚠警　告

- **ナビゲーションシステムを操作する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**



この車両は、スマートフォンを車両に接続して、ナビゲーションアプリによる画像と音声（別途 Bluetooth ヘッドセットが必要です）でルート案内するナビゲーションシステムを使用することができます。ナビゲーションシステムの使用には、Yamaha Motorcycle Connect アプリと Garmin 社が提供する Garmin Motorize ナビゲーションアプリをアプリケーションストアか

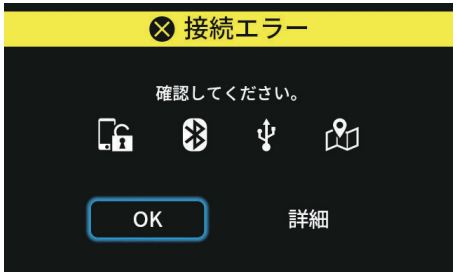
らスマートフォンにダウンロードしてください。
ナビゲーションを使用するには、次の準備をしてください。
- スマートフォンを USB ジャックに接続
- Bluetooth で Yamaha Motorcycle Connect アプリを接続
- Bluetooth でヘッドセットを接続（音声ルート案内）

要　点

- Garmin Motorize アプリを使用するには、Garmin Motorize の利用規約に同意する必要があります。
- ヤマハ発動機は、Garmin Motorize アプリの使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 常に Garmin Motorize アプリが画面に表示された状態で使用してください。別のアプリ（電話、アラームなど）が画面に表示された場合、スマートフォンがスリープ状態から自動ロックされ、ナビゲーションアプリ機能が停止する場合があります。
- Garmin Motorize アプリの GPS へのアクセス許可を、スマートフォンの設定で“常に許可”に設定してください。
- Garmin Motorize アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- iOS のスマートフォンは、Yamaha Motorcycle Connect アプリが起動していなくてもナビゲーションシステムを使用できます。

ナビゲーションシステムの使い方

ナビゲーションシステムは、ジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。
- “⌂”を長押しして、メインディスプレイからナビゲーションシステムを開きます。
- “✔”を短押しししてナビゲーションシステムメニューを開きます。
- ジョイスティックを上下に操作して、地図のズーム調整をします。
- “⌂”を長押しししてナビゲーションを終了し、メインディスプレイに戻ります。



ナビゲーションシステムが Garmin Motorize アプリに接続できない場合は、このエラー画面が表示されます。続ける場合は、“OK”を選択し“✔”を短押ししてください。

JAU96139

電話

この車両は、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットを利用して電話機能を使用することができます。この機能を使用するには、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットのそれぞれを CCU と Bluetooth でペアリングして接続してください。(4-3 ページ参照) 電話機能はジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。(5-3 ページ参照)

電話を受ける



接続されたスマートフォンに電話がかかってくると、ヘッドセットから着信音が鳴り、ディスプレイ下側に電話機能が表示されます。緑色の電話アイコンを選択し“✔”を短押しして、電話に応答します。通話中は、ディスプレイ右上に電話表示アイコン（緑）“”が表示されます。

要　点

着信中にジョイスティックを上下に操作すると、着信音量を調整できます。



1. 音量
2. 通話終了

音量アイコンをハイライト表示し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。通話終了アイコンをハイライト表示し、“✔”を短押しして通話を終了します。



1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え (Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン)

ポップアップメニューを開くと、ディスプレイ下側にある電話機能が非表示になりますが、メニューシステムの“ Telephone”に移動すると、再度表示されます。通話中にメニューシステムの“ Applications（アプリケーション）” → “電話”に移動すると、通話画面から使用できる機能を選択できます。(5-19 ページ参照)

要　点

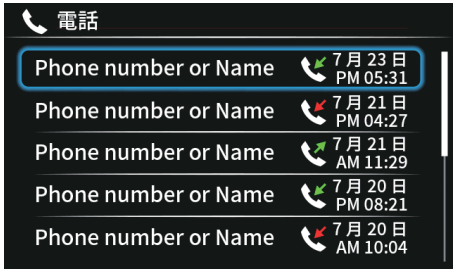
通話画面をホームボタン“”で閉じても、通話は終了しません。

音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して、通話の音量レベルを調整し

ます。通話終了アイコンを選択し、“✔”を短押しして通話を終了します。

電話をかける

1. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “電話”
   通話中ではない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔”を短押しすると通話を開始します。ディスプレイは通話中の画面になります。



2. スマートフォンと CCU を接続している場合でも、スマートフォンから直接電話をかけることができます。スマートフォンから直接電話をかけると、車両のディスプレイ下側に電話機能が表示されます。通話音声は、接続された Bluetooth ヘッドセットから再生されます。

要　点

連絡先情報がスマートフォンから CCU に共有されていない場合、直近の発着信履歴には、スマートフォンが接続されているときに通話した電話番号のみが表示されます。

JWA21420

⚠ 警 告

- **走行中はスマートフォンを操作しないでください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

JAUA4100

接続エラーが発生したときは

スマートフォンや Yamaha Motorcycle Connect アプリ、Garmin Motorize アプリと CCU の接続にエラーが発生した場合、以下の画面が表示されます。



“詳細”を選択し、画面の指示に従って接続を確認してください。



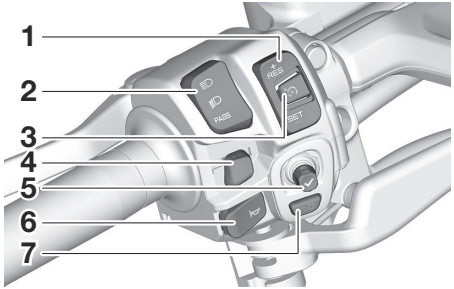
エラーが解消しない場合は、次のことを試してください。

1. 車両の電源をオフにします。30 秒後、電源を再度オンにしてください。
2. USB プラグを抜きます。10 秒後、USB プラグを再度接続してください。
3. スマートフォンの Bluetooth をオフにします。その後、再度オンにしてください。
4. スマートフォンと CCU の両方から Bluetooth のペアリング履歴を削除して、再度ペアリングを行ってください。
5. Yamaha Motorcycle Connect アプリと Garmin Motorize アプリを再起動してください。

JAU6605B

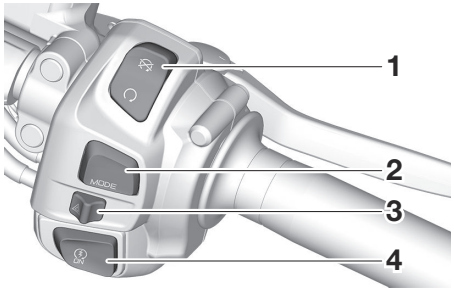
ハンドルスイッチ

＜左＞



1. クルーズコントロール設定スイッチ“RES+/SET-” (XP560D)
2. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ“≣O/≣O/PASS”
3. クルーズコントロール電源スイッチ“ ”(XP560D)
4. 方向指示器スイッチ“⇦/⇨”
5. ジョイスティック
6. ホーンスイッチ“ ”
7. ホームボタン“ ”

＜右＞



1. エンジンストップスイッチ“ / ”
2. ドライブモードスイッチ“MODE”
3. ハザードスイッチ“ ”
4. 車両の電源 ON／スタータースイッチ“ ”

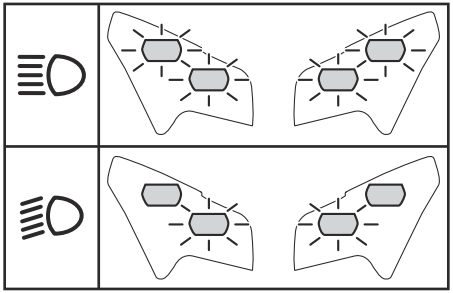
JAU54203

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ“≣O/≣O/PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

≣O（上向き）：遠くを照らします。

≣O（下向き）：近くを照らします。



ヘッドライトの配光が下向きのときに“PASS”側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ“🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU97550

エンジンストップスイッチ“🔄/⊠”

エンジン始動前に、このスイッチを“🔄”にします。

転倒した場合やスロットルが動かない場合などの非常時には、このスイッチを“⊠”にしてエンジンを停止します。

JAU95663

車両の電源 ON／スタータースイッチ“ON”

アンロックの状態にしたスマートキーを持って車に近づき、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を短押しすると車両の電源がオンになります。その後、サイドスタンドをはね上げ、前後のブレーキをかけた状態で、このスイッチを押してエンジンを始動させます。

エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。

要 点

- XP560
  車両の電源がオフの状態からスタータースイッチ“ON”を押すと電源がオンになります。エンジンを始動させる場合は、もう一度スタータースイッチ“ON”を押します。
- XP560D
  車両の電源がオフの状態からスタータースイッチ“ON”を押すと電源がオンになり、そのまま押し続けるとエンジンを始動させることができます。
- センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押しても電源がオンにならない場合は、スタータースイッチ“ON”を押して電源がオンになるか試みてください。

JAU95652

ハザードスイッチ“⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフにしてもハザードランプは点滅し続けます。

ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAUA1930

クルーズコントロールスイッチ (XP560D)

クルーズコントロールシステムの詳細については、3-1 ページを参照してください。

JAU84260

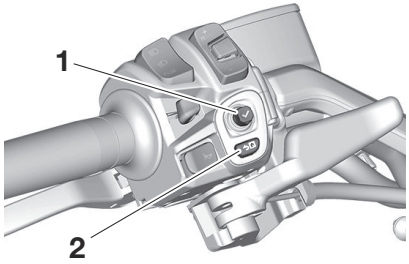
ドライブモードスイッチ“MODE”

ドライブモードの詳細については、5-25 ページを参照してください。

JAU95874

ジョイスティック／ホームボタン

左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで、ポップアップメニュー、ナビゲーションシステム、およびインフォメーションディスプレイを操作します。



1. ジョイスティック
2. ホームボタン“⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用して操作を説明しています。

“⌂”を短押し	ホームボタンを短く押します
“⌂”を長押し	ホームボタンを 1 秒間押します
“✔”を短押し	ジョイスティックを短く押します
“✔”を長押し	ジョイスティックを 1 秒間押します
ジョイスティックを操作	ジョイスティックを上下左右に動かします

メインディスプレイ画面

- ジョイスティックを上下に操作して、左側のインフォメーションディスプレイを順番に表示します。(5-9 ページ参照)
- “✔”を長押しして、すべての音量をミュート（消音）とミュート解除を切り替えます。
- ジョイスティックを左右に操作、“⌂”を短押し、または“✔”を短押ししてポップアップメニューを開きます。(5-12 ページ参照)
- “⌂”を長押ししてナビゲーション表示を開きます。(4-6 ページ参照)

メニューの操作

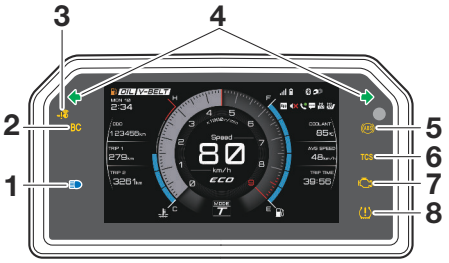
- ジョイスティックを左右上下に操作して、メニュー項目を選択および調整します。
- “✔”を短押しして選択を実行します。
- “⌂”を短押しすると前の画面に戻ります。
- “⌂”を長押ししてメニューを閉じます。

ナビゲーション表示画面

- “✔”を短押ししてナビゲーションシステムメニューを開きます。(4-6 ページ参照)
- ジョイスティックを上下に操作して、地図のズーム調整をします。
- “✔”を長押しして、すべての音量をミュート（消音）とミュート解除を切り替えます。
- ジョイスティックを左右に操作、または“⌂”を短押ししてポップアップメニューを開きます。
- “⌂”を長押ししてメインディスプレイに切り替えます。(5-6 ページ参照)

JAU7712A

警告灯と表示灯



1. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
2. ブレーキコントロールシステム表示灯 “BC”
3. スマートキーシステム表示灯 “ ”
4. 方向指示器表示灯 “ ” / “ ”
5. ABS 警告灯 “ ”
6. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
7. エンジン警告灯 “ ”
8. タイヤ空気圧警告灯 “ ” (XP560D)

JAU88680

方向指示器表示灯 “ ” / “ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88690

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU88712

エンジン警告灯 “ ”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯または点滅します。警告灯が点灯または点滅したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブベルト、プーリー（装備されている場合）、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- V ベルトやドライブベルトを正しくメンテナンスしてください。（装備されている場合）
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウトやウィーリーなどの行為はしないでください。

JAU77075

ABS 警告灯 “ ”

ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

(5-26 ページ参照)
通常、車両の電源がオンになると ABS 警告灯が点灯し、時速 10 km/h 以上で走行すると消灯します。
次のような場合、ABS が正しく機能しない可能性があります。
- 車両の電源がオンになっても、警告灯が点灯しない場合
- 時速 10 km/h 以上で走行しても、警告灯が消灯しない場合
- 乗車中に、警告灯が点灯もしくは点滅した場合

これらのいずれかの場合は、速やかにヤマハ販売店で点検を受けてください。

JWA16043

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき
- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

要 点

メインスタンドを立てた状態でエンジンをかけると、ABS 警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAUA4140

ブレーキコントロールシステム表示灯 "BC"

ブレーキコントロールシステムが作動すると点滅し、オフになると点灯します。(5-27 ページを参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU88931

トラクションコントロールシステム表示灯 "TCS"

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、オフになると点灯します。(5-28 ページを参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU78086

スマートキーシステム表示灯 "🔑"

車両とスマートキーとの通信が確立しているとき、またスマートキーに関連する操作が行われたとき、この表示灯が点滅します。スマートキーシステムにエラーが発生したときも、表示灯が点滅します。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や消灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAUA4161

タイヤ空気圧警告灯 "(!)" (XP560D)

タイヤの空気圧が低いと検知された場合、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、できるだけ早く車両を停止し、タイヤを点検してください。

JWA23050

⚠ 警 告

適切なタイヤ空気圧にしないと制御不能となり、事故につながる可能性があります。

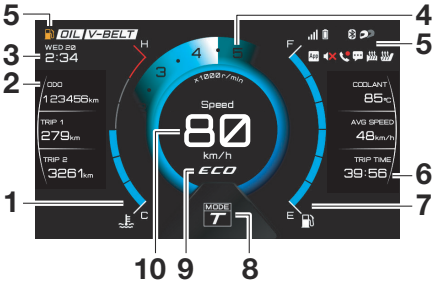
センサーのバッテリーが放電したとき、または故障が検出されたとき、警告灯が点滅します。警告灯が点滅したときは、ヤマハ販売店に車両の点検を依頼してください。

要　点

- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や消灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- TPMS が無効になっていると、タイヤ空気圧警告灯はいかなる場合も点灯／点滅しなくなり、インフォメーションディスプレイの空気圧情報は表示されなくなります。

JAU9609F

ディスプレイ

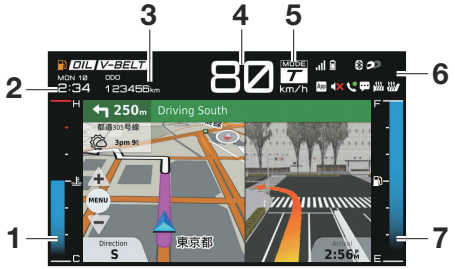


1. 水温計
2. 左側インフォメーションディスプレイ
3. 時計
4. タコメーター
5. 表示アイコン
6. 右側インフォメーションディスプレイ
7. 燃料計
8. ドライブモード表示
9. エコ表示“ECO”
10. スピードメーター

要　点

- このモデルは TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位は、キロメートルとマイル、°C（摂氏）と°F（華氏）を切り替えることができます。（5-23 ページ参照）
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

メニューシステムまたはナビゲーション機能の使用中



1. 水温計
2. 時計
3. お気に入りインフォメーションディスプレイ
4. スピードメーター
5. ドライブモード表示
6. 表示アイコン
7. 燃料計

メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、ディスプレイの情報はこのように表示されます。

時計
この時計は 12 時間表示です。時刻はスマートフォンを接続すると自動的に更新されますが、“⚙ Machine Settings” → “Clock” で手動設定することもできます。(5-22 ページ参照)

スピードメーター
車両の速度を示します。

タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン: 8300 r/min 以上

燃料計
フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが “F”（満）から “E”（空）に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

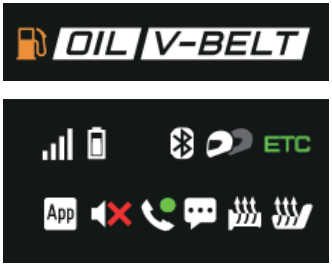
JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

水温計
冷却水の温度は、天候やエンジン負荷によって変化します。冷却水の温度が上限を超えると、水温計が点滅を始めます。水温計が点滅したときは、車両を停車させエンジンを冷ましてください。

表示アイコン



低燃料表示 “⛽”
フューエルタンク内の燃料残量が約 2.7 L 以下になると点灯します。

オイル交換表示 “OIL”
初回 1000 km と、以降 6000 km 毎に点灯します。(5-22 ページ参照)

V ベルト交換表示 “V-BELT”
20000 km 毎に点灯します。(5-22 ページ参照)

ネットワーク接続表示 “📶”
接続されているスマートフォンのネットワーク接続状態を示します。
アイコンなし : スマートフォンが接続されていません。
📶 : スマートフォンは接続されていますが、ネットワークに接続されていません。
📶 : スマートフォンが接続されており、ネットワークに接続されています。アイコンのセグメントは電波の強度を示します。

スマートフォンのバッテリー残量レベル表示 “🔋”
接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。
アイコンなし : スマートフォンが接続されていません。
🔋 : 中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。

:スマートフォンが USB で接続されている状態を示します。

Bluetooth 接続表示 “”
Bluetooth 接続状態を示します。
アイコンなし：車両の Bluetooth 機能が使用不可になっています。
：車両の Bluetooth 機能は使用可能ですが、スマートフォンに接続されていません。
：車両の Bluetooth 機能が使用可能で、スマートフォンが接続されています。

ヘッドセット表示 “”
Bluetooth ヘッドセットが車両に接続されると表示されます。ヘッドセットの接続をライダーとパッセンジャーで変更した場合と、2 つ同時に接続した場合に、アイコンが変わります。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ表示 “”
Yamaha Motorcycle Connect アプリが車両に正常に接続されると表示されます。
：接続しているスマートフォンが高温になるとアイコンが黄色に変わります。

要　点

マルチファンクションメーターと CCU の間に通信エラーが発生した場合、アイコンが点滅します。

オーディオのミュート表示 “”
オーディオがミュート（消音）になっている場合に表示されます。

電話表示 “” / “”
通話中は緑色、不在着信があった場合は赤色のアイコンが表示されます。メニューシステムの “ Applications（アプリケーション）” → “電話” から直近の発着信履歴を開くと、不在着信のアイコンは消灯します。

通知表示 “”
接続されているスマートフォンが SNS やメールなどの通知を受信したときに表示されます。車両の電源をオフにするか、メニューシステムの “ Applications（アプリケーション）” → “通知” から通知を確認すると、アイコンは消灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンの Yamaha Motorcycle Connect アプリが CCU に接続されている場合にのみ使用できます。
- 通知を確認するためには、スマートフォンの Yamaha Motorcycle Connect アプリに通知へのアクセスを許可する必要があります。

グリップウォーマー表示 “”（装備している場合）
グリップウォーマーは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-21 ページ参照）
アイコンには、現在の設定状況が表示されます。
アイコンなし：切
：低
：中
：高

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットル**

グリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。

シートヒーター表示 “♨”（装備している場合）

シートヒーターは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-21 ページ参照）

アイコンには、現在の設定状況が表示されます。

アイコンなし：切

♨：低

♨：中

♨：高

JCA23980

注 意

- **シートヒーターを使うときは、臀部や脚部を保護できる衣類を着用してください。**
- **外気温が 20°C 以上のときは、シートヒーターを高設定にしないでください。**
- **シートが擦り切れたり傷んだりしてきたときは、シートヒーターの使用を中止して、シートを交換してください。**

ETC 表示 “ ETC ”（オプション）

ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。

車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で“ETC”が表示されます。

エコ表示

環境にやさしく、良好な燃費の状態で運転されているとき、この表示が点灯します。車両が停車すると、表示が消灯します。

要 点

燃費を抑えるには、以下の点を意識して走行してみてください。

- 急な加速を避ける
- 一定速度で走行する

ドライブモード表示

この表示は、スポーツ“S”とツーリング“T”のうち、どちらのモードが選択されているかを示します。（5-25 ページ参照）

インフォメーションディスプレイ



1. 左側インフォメーションディスプレイ
2. “ Vehicle Info”
3. 右側インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイは、メインディスプレイのスピードメーター／タコメーターの左右外側に表示されます。表示項目は、次のとおりです。

- 気温計 (AIR)
- 水温計 (COOLANT)
- 平均速度 (AVG SPEED)
- 走行時間(TRIP TIME)
- 前輪タイヤ空気圧 (TIRE FRONT)（装備している場合）
- 後輪タイヤ空気圧 (TIRE REAR)（装備している場合）
- 平均燃費 (AVG FUEL)

- 瞬間燃費 (INST FUEL)
- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
- 航続可能距離 (RANGE)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)

左側のインフォメーションディスプレイには、同時に 3 つの項目が表示されます。ジョイスティックを上下に操作することで、ほかの項目を順番に表示できます。右側のインフォメーションディスプレイには、お気に入りの項目を 3 つ表示できます。お気に入り項目はメニューシステムの“⚙ Machine Settings”→“Vehicle Info”から選択できます。(5-23 ページ参照)

ナビゲーションやメニュー画面を開いている場合は、3 つのお気に入り項目の 1 つを画面上部に表示することができます。



1. お気に入りインフォメーションディスプレイ

ナビゲーション画面でメニューシステムの“ⓘ Vehicle Info”を選択し、ジョイスティックを上下に操作すると、画面上部のお気に入り項目が順番に表示されます。

要　点

メニュー画面で表示されるお気に入り項目は、1 つに固定されます。変更するには、メニューシステムの“⚙ Machine Settings”→“Vehicle Info”へ進み、お気に入り項目を選択しなおしてください。

インフォメーションディスプレイの数値をリセットするには



1. メニューシステムの“ⓘ Vehicle Info”を選択します。(5-12 ページ参照)
2. アイコンの周りに 4 方向の矢印が表示され、ジョイスティックで左側のインフォメーションディスプレイの数値を選択します。数値が青くハイライト表示され、“ⓘ”の下に“Push ✔ to Reset”と表示されます。
3. 青くハイライト表示された数値をリセットできる場合は、数値が点滅し“Push ✔ to Reset”と表示されます。点滅中に“✔”を押すと、確認画面が表示されます。“Yes”を選択すると、数値がリセットされます。

要　点

表示されている数値をリセットできない場合は、“Push ✔ to Reset”がグレー表示になります。インフォメーションディスプレイの数値は、“All Reset”機能でリセットできます。(5-25 ページ参照)

気温計 (AIR)

気温を、-9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示します。表示される温度は走行状態によって車両温度の影響を受けるため、実際の外気温と異なる場合があります。

要　点

- 計測された気温が-9 °C 未満の場合、“---”と表示されます。

● 計測された気温が 50 °C 以上の場合、“---”と表示されます。

水温計 (COOLANT)
冷却水の温度を、-30 °C から 116 °C まで 1 °C 刻みで表示します。

要　点

● 冷却水の温度が -30 °C 未満の場合、“-30”と表示されます。
● 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi”と表示されます。

平均速度 (AVG SPEED)
最後にリセットしてからの平均速度を表示します。

走行時間 (TRIP TIME)
エンジンの稼働時間を表示します。

前輪／後輪タイヤ空気圧 (TIRE FRONT / TIRE REAR)（装備している場合）
TPMS によって検出された前輪または後輪の現在のタイヤ空気圧を表示します。

JWA22850

⚠警 告

インフォメーションディスプレイに表示される空気圧は、走行中のタイヤの温度に影響を受けるため、参考情報としてご利用ください。運行前点検の際は、必ずタイヤが冷えているときに、タイヤゲージで点検してください。

要　点

● 車両の電源をオンにすると、車両が動き出すまでタイヤ空気圧は“---”と表示されます。
● タイヤ空気圧は、メニューシステムから表示単位を“kPa”、“psi”、または“kgf/cm2”に設定できます。（5-23 ページ参照）

平均燃費 (AVG FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、平均燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。（5-23 ページ参照）表示単位がマイルの場合、平均燃費は“MPG”で表示されます。

瞬間燃費 (INST FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、瞬間燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。（5-23 ページ参照）表示単位がマイルの場合、瞬間燃費は“MPG”で表示されます。

オドメーター (ODO)
車両の総走行距離を表示します。

要　点

オドメーターは最大値 999999 で固定され、リセットできません。

トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
“TRIP 1”と“TRIP 2”は、ゼロにリセットされてからの走行距離を表示します。
“TRIP 1”と“TRIP 2”は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

航続可能距離 (RANGE)
現在の走行状況と燃料残量を考慮し、走行可能距離の予測値を表示します。

フューエルトリップメーター (TRIP F)
燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F”は自動的に“RANGE”に切り替わり、その時点からの走行距離を計測します。フューエルトリップメーターは、給油後ある程度の距離を走行すると自動的にリセット

されます。

JAU9614J

ポップアップメニューシステム



1. ポップアップメニュー

この車両のメニューシステムは、左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで操作できます。(5-3 ページ参照)

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- “⌂” を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔” を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “✔” を短押しして選択を実行します。
- “⌂” を短押しすると、前の画面に戻ります。
- “⌂” を長押ししてメニューを閉じます。

要　点

- メニューアイコンに “⌃⌄” (矢印) が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、選択した機能の表示ができます。
- 一部のメニューページや項目には “<” (戻る) ／ “>” (進む) が表示されます。その場合は、ジョイスティックを指示された方向に操作して、画面の開閉ができます。

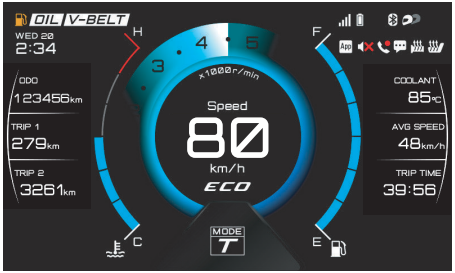
ポップアップメニューには、次の主な機能があります。

Theme	ディスプレイのビジュアルテーマを選択します。(5-13 ページ参照)
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替をします。(5-13 ページ参照)
Audio	ポップアップオーディオプレーヤーに接続します。(5-13 ページ参照)
Applications	スマートフォンのアプリケーションメニューに接続します。(5-14 ページ参照)

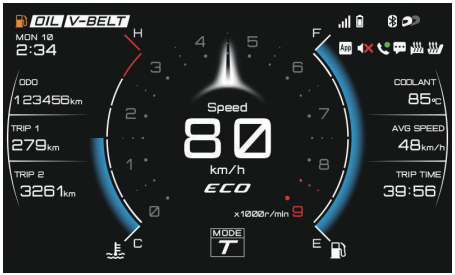
Telephone（着信時と通話中のみ）	通話するための電話機能を表示します。（5-20 ページ参照）
Screen Adjust（装備している場合）	ウインドスクリーンの高さを調整します。（5-21 ページ参照）
Grip Warmer（装備している場合）	グリップウォーマーの温度を調節します。（5-21 ページ参照）
Seat Heater（装備している場合）	シートヒーターの温度を調節します。（5-21 ページ参照）
Machine Settings	車両操作に関連する設定を変更します。（5-21 ページ参照）

Theme

メインディスプレイのビジュアルテーマは、3 つのテーマから選択できます。デザインに違いはありますが、機能は同じです。







要　点

3 つのテーマにはそれぞれ 2 つのバリエーションがあり、ドライブモードスイッチを使用してドライブモードを切り替えると表示が変わります。（5-2 ページ参照）

Vehicle Info

インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替ができます。（5-9 ページ参照）

Audio



ポップアップメニューに簡易オーディオプレーヤーが表示されます。“ App Applications（アプリケーション）” → “オーディオ” から、フルオーディオプレーヤーを利用できます。（5-18 ページ参

5

照）
ジョイスティックを上下に操作して音量の調整をします。ジョイスティックを左右に操作すると、前／次の曲にスキップします。“✔”を短押しして再生／一時停止を切り替えます。

Applications



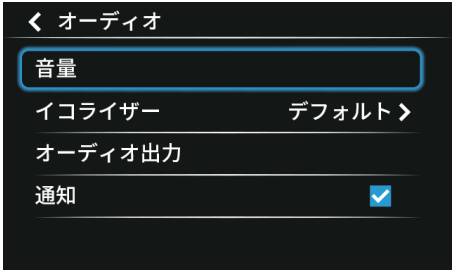
スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットに関連する機能を設定することができます。

オーディオ	フルオーディオプレーヤー
電話	電話機能
天気	天気の情報に関する機能
通知	スマートフォン通知機能
設定	CCU 設定（オーディオ／接続／システム）

要　点

- アイコンの順番は、Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して整理することができます。
- CCU に接続が行われていないアプリケーションのアイコンはグレー表示になります。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ



接続されている Bluetooth ヘッドセットの音量レベルを調節できます。“通知”はアラート音のオン／オフを選択できます。

要　点

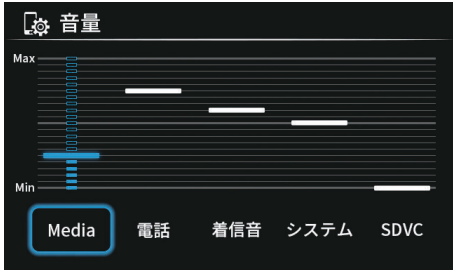
- ここで音量レベルを調節しても、接続されているスマートフォン側の音量設定は変更されません。音量レベルが大きすぎる場合や小さすぎる場合は、スマートフォンやヘッドセットの音量設定を確認してください。
- 通知音と着信音はスマートフォン側で設定されます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → 音量

JWA21430

⚠警 告

周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。



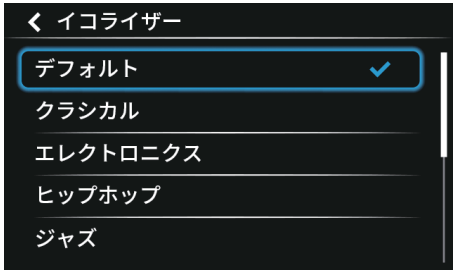
各機能の音量設定が調節できます。
Media：オーディオプレーヤーの音量（20 段階）
電話：通話音量（20 段階）

要　点

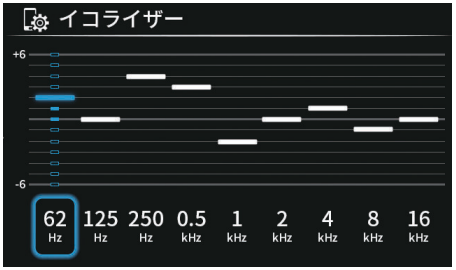
通話音量はポップアップメニューの電話機能でも調整できます。（4-8 ページ参照）

着信音：着信音の音量（10 段階）
システム：スマートフォンのシステム音量（10 段階）
SDVC：車速連動音量調節 (SDVC) は、走行速度に応じて音量を自動的に調整する機能です。（低／中／高／オフ）

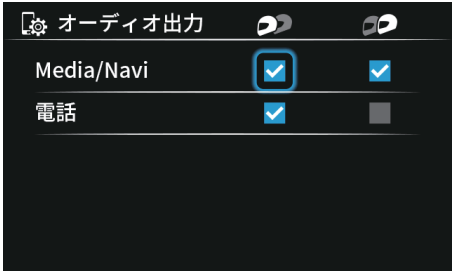
Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → イコライザー



オーディオ出力を、いろいろなイコライザープリセットから選択できます。プリセットされた出力レベルはジョイスティックで変更でき、“✔”を短押しすると確認できます。既存のプリセットを変更すると、“カスタマイズ”に保存されます。



Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → オーディオ出力



Bluetooth ヘッドセットを接続すると、“” ／ “”がディスプレイ上部に表示されます。ここでは、Media/Navi と電話の音声出力先を、ライダーヘッドセット“”とパッセンジャーヘッドセット“”とで切り替えすることができます。

要　点

電話の音声出力先として、一度に選択できるヘッドセットは 1 つだけです。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション



Bluetooth と Yamaha Motorcycle Connect アプリへの接続が設定ができます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth

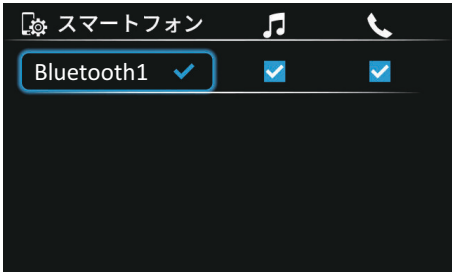


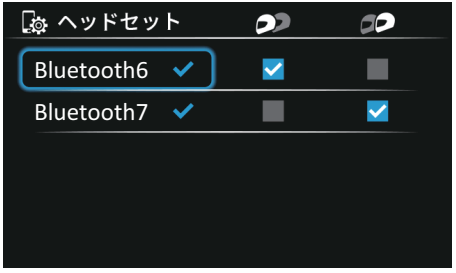
スマートフォンとヘッドセットへのBluetooth 接続の設定ができます。Bluetooth デバイスのペアリングと接続の手順については、4-3 ページと 4-5 ページを参照してください。

要　点

“Bluetooth 自動接続”が有効になっている場合、CCU は過去にペアリングされた利用可能な登録済みデバイスに自動的に接続します。“Bluetooth 自動接続”が無効になっている場合は、“登録済みデバイス”でリストから接続したいデバイスを選択し、手動で接続する必要があります。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth → 登録済みデバイス





過去にペアリングされたデバイスのリストが表示されます。接続されると、デバイス名の横に青いチェックマークが表示されます。スマートフォンからの音声は、オーディオと電話とで選択できます。

Bluetooth ヘッドセットは、ライダーとパッセンジャーとで切り替えることができます。

デバイス名を選択すると、そのデバイスの選択肢が表示されます。



選択したデバイスの接続（Bluetooth が有効な範囲内にある場合）、切断、またはペアリング履歴を削除できます。

要　点

- Bluetooth のペアリング履歴をスマートフォンから削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴をスマートフォンから削除した後に、あら

ためてペアリングを行ってください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → システム情報

現在のシステムソフトウェアのバージョンを表示し、USB メモリを使用して更新することができます。
CCU の更新ソフトウェアがリリースされることがあります。詳しくはヤマハ発動機のホームページを定期的にご確認ください。

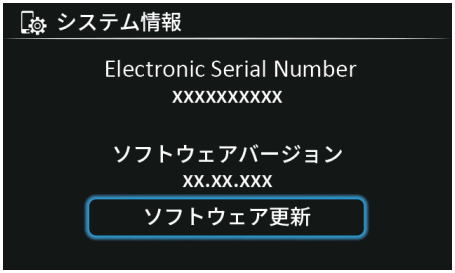
JCA27751

注 意

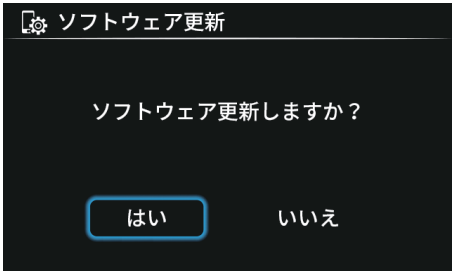
データ転送が完了するまで車両の電源はオンにしたまま、USB メモリは取り外さないでください。

システムソフトウェアを更新する

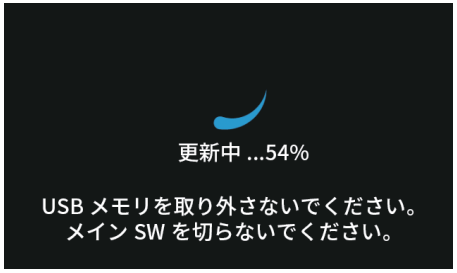
1. ヤマハ発動機のホームページにアクセスして、最新の更新ソフトウェアを USB メモリにダウンロードし、フロントトランクにある USB ジャックに接続します。（5-38 ページ参照）



2. “ソフトウェア更新” を選択します。



3. “はい” を選択して、ソフトウェアの更新を開始します。更新が適切に完了すると、“完了しました。” と表示されます。



要 点

更新が完了するまで、車両の電源をオフにしたり、USB メモリを取り外したり、車両を動かしたりしないでください。

JCA27740

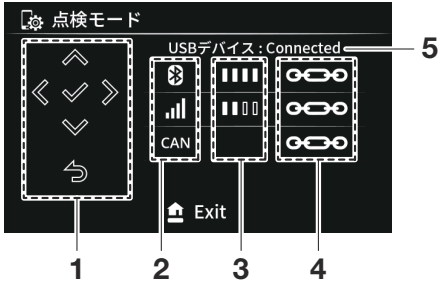
注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 点検モード

CCU への接続、ジョイスティック、ホームボタンの状態が表示されます。

5



1. ジョイスティック／ホームボタンの状態
2. 接続の種類
3. 信号強度
4. 接続状態
5. USB デバイス名と接続状態

接続の種類は次のとおりです。

：Bluetooth

：モバイルネットワーク

CAN：CAN（コントローラエリアネットワーク：CCU とマルチファンクションメーターとの接続）

接続状態の種類は次のとおりです。

：接続されています

：切断されました

：接続状態不明です

要　点

この画面は、ホームボタンを短押ししても閉じません。ホームボタンを長押しして閉じてください。

App Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 法的情報

ソフトウェアのサードパーティライセンスは、こちらで確認できます。

App Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → リセット

CCU と関連するすべての設定、ペアリング、および保存されたデータのリセットができます。

要　点

- リセット後、CCU は数分で再起動します。
- 車両を売却または譲渡する前に、CCU をリセットしてスマートフォンのすべての個人データ（通話履歴や連絡先情報など）を削除してください。
- CCU がリセットされたら、Bluetooth のペアリング履歴と Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング履歴をスマートフォンから削除してください。削除しない限り、CCU とそのスマートフォンを再びペアリングすることができません。
- 走行中は、CCU をリセットすることはできません。

App Applications（アプリケーション）→ オーディオ



1. ブラウズ
2. 戻る／次へ
3. 再生／一時停止
4. リピートなし／すべてリピート／1 曲をリピート
5. シャッフル
6. 音量レベル

ジョイスティックを上下に操作して、音量レベルを調整できます。ジョイスティックを左右に操作して各機能（ブラウズ、戻る／次へ、再生／一時停止、リピートなし／すべてリピート／1 曲をリピート、シャッフル）を選択し、“✔”を短押しして選択を実行しま

す。



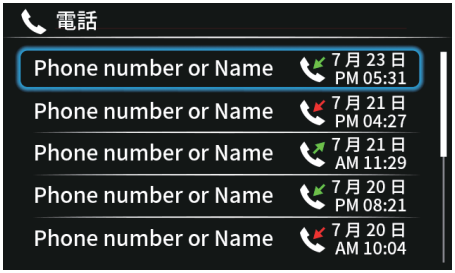
楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションから取り込まれます。

要　点

- 接続しているスマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションを先に起動する必要がある場合があります。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、オーディオプレーヤーが自動的に再生したり、“オーディオ”画面の機能が使用できない場合があります。

Applications（アプリケーション）→ 電話

通話中でない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。



直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔”を短押しすると通話が開始されます。

：発信（緑）
：不在着信（赤）
：着信（緑）

要　点

- 同じ連絡先からの発着信は、連絡先の横に回数が表示されます。
- 発着信履歴は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い履歴から削除されます。

リストから名前または番号を選択して通話を開始すると、通話中の画面が表示されます。



1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え（Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン）

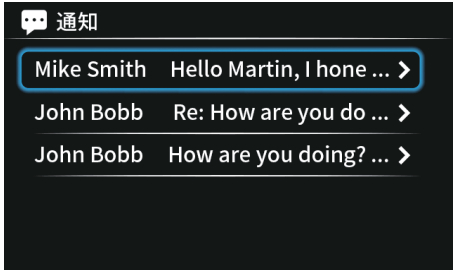
音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。
通話終了アイコンを選択し、“✔”を短押しすると通話が終了します。

要　点

- ホームボタンでこの画面を閉じても、通話は終了しません。（5-20 ページ参照）
- 連絡先情報を CCU にダウンロードするには、スマートフォン側でアクセス許可をする必要があります。
- 連絡先情報のダウンロードには時間がかかる場合があります。ダウンロードが完了する前に電話がかかってきた場合は、電

話番号のみが表示されます。

Applications（アプリケーション）→通知

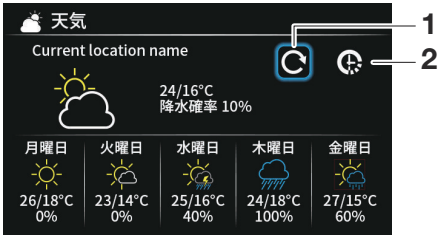


接続されたスマートフォンからの通知のリスト（車両とペアリングされた以降）が表示されます。選択したメッセージを開いて内容を確認できます。接続しているスマートフォンから通知を受信すると、通知表示アイコン“”が表示されます。通知を選択し“✔”を短押しすると、メッセージが表示されます。

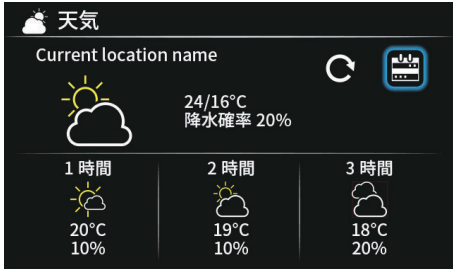
要　点

- 新しい通知をすべて確認すると、通知表示アイコン“”は消灯します。
- 通知は最大 100 件まで保存されます。上限に達すると、古い通知から削除されます。
- 長いメッセージだと、すべてを表示できない場合があります。
- 走行中は、メッセージを開いたり読んだりすることはできません。

Applications（アプリケーション）→天気



1. 更新
2. 予報間隔



天気情報が表示されます。更新アイコンを選択すると、更新された天気情報が表示されます。予報間隔アイコンから、天気情報の予報間隔を変更できます。

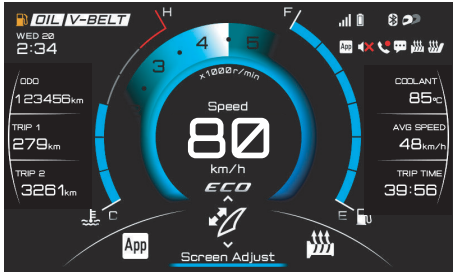
Telephone



着信時および通話中に、ポップアップメニューに表示されます。選択すると、ディスプレイ下側の電話機能が開きます。（4-8

ページ参照）

Screen Adjust（装備している場合）



ジョイスティックを上下に操作して、ウインドスクリーンの高さを調整します。

Grip Warmer（装備している場合）



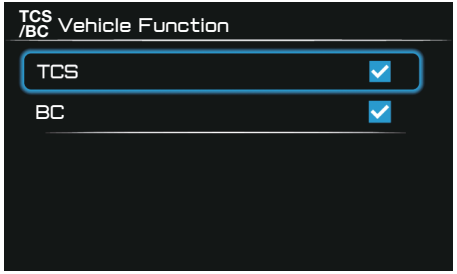
グリップウォーマーは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Machine Settings”→“Grip Warmer”から調整することができます。（5-24 ページ参照）
ディスプレイの右上にあるグリップウォーマー表示は、現在選択されている温度設定を表します。

Seat Heater（装備している場合）



シートヒーターは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調整ができます。温度設定は“Machine Settings”→“Seat Heater”から調整することができます。（5-24 ページ参照）
ディスプレイの右上にあるシートヒーター表示は、現在選択されている温度設定を表します。

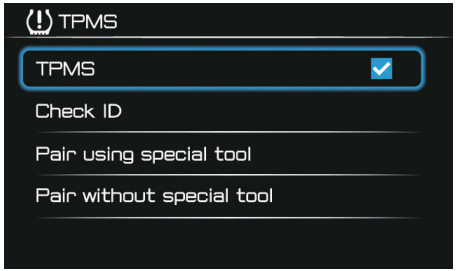
Machine Settings → Vehicle Function



以下のシステムのオン／オフを切り替えることができます。

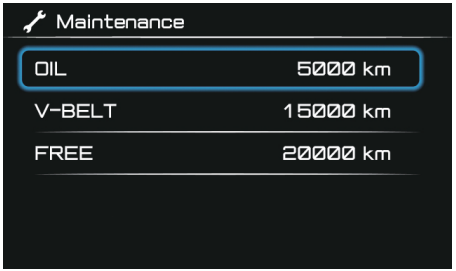
- トラクションコントロールシステム（5-28 ページ参照）
- ブレーキコントロールシステム（5-27 ページ参照）

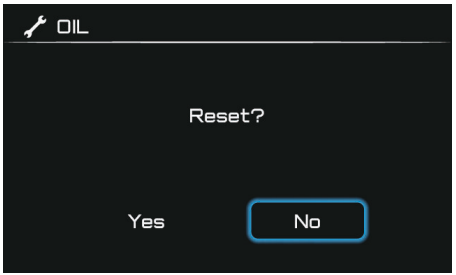
Machine Settings → TPMS（装備している場合）



TPMS（タイヤ空気圧監視システム）の選択や設定ができます。“TPMS”は TPMS を有効／無効にする場合に使用します。TPMS を無効にすると、タイヤ空気圧警告灯はいかなる場合も点灯／点滅しなくなり、インフォメーションディスプレイの空気圧情報は表示されなくなります。
その他の項目（“Check ID”、“Pair using special tool”、“Pair without special tool”）は販売店の業務利用のみとなります。

Machine Settings → Maintenance



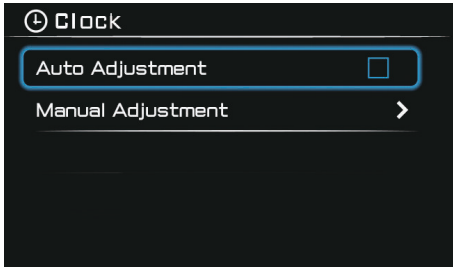


エンジンオイルの交換“OIL”、V ベルトの交換“V-BELT”、およびお好みのメンテナンス項目“FREE”のメンテナンス後の走行距離が表示されます。
いずれかの項目のメンテナンスが完了したら、“✔”を短押しして選択し、リセットをしてください。

要　点

“OIL”または“V-BELT”をリセットすると、ディスプレイ左上のオイル交換表示／V ベルト交換表示は消灯します。（5-7 ページ参照）

Machine Settings → Clock

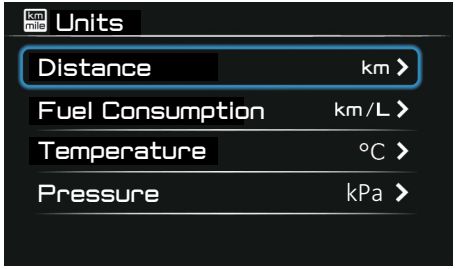


時計はスマートフォンと同期して自動調整するように設定できます。自動調整をするには、Yamaha Motorcycle Connect アプリと CCU を接続してください。（4-1 ページ参照）
“Manual Adjustment”を選択すると、時刻を手動で調整することができます。



時計を手動で調整するには、ジョイスティックを左右に操作して項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して項目を調整します。“✔”を短押しすると、時計が設定され、前のメニューに戻ります。

Machine Settings → Units



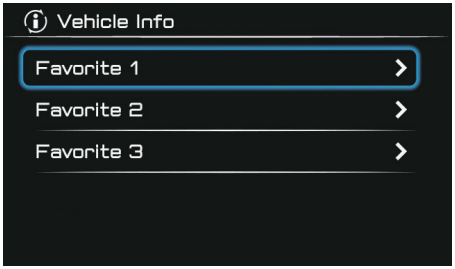
ディスプレイの表示単位は次のように変更できます。

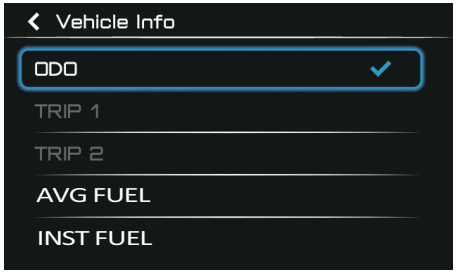
- Distance（距離）：“km”または“mile”
- Fuel Consumption（燃費）：“km/L”、“L/100km”または“MPG”
- Temperature（温度）：“°C”または“°F”
- Pressure（圧力）（装備している場合）：“kPa”、“psi”または“kgf/cm²”

要　点

距離単位に“mile”を選択すると、燃費単位は自動的に“MPG”に変更されます。その場合、“Fuel Consumption”はグレー表示され、選択できません。

Machine Settings → Vehicle Info





インフォメーションディスプレイの中から、お気に入りを 3 つ選択できます。お気に入りの項目が右側のインフォメーションディスプレイに表示されます。（5-13 ページ参照）

要　点

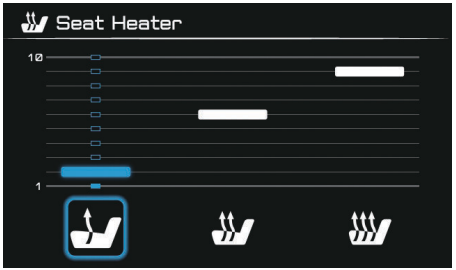
メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、画面上部にお気に入り項目が 1 つだけ表示されます。（5-6 ページ参照）

Machine Settings → Grip Warmer（装備している場合）



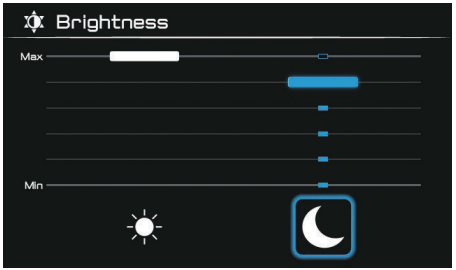
グリップウォーマーには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。ジョイスティックを左右に操作して温度設定を選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

Machine Settings → Seat Heater（装備している場合）



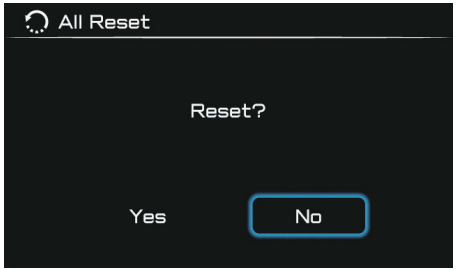
シートヒーターには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。ジョイスティックを左右に操作して温度設定を選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

Machine Settings → Brightness



マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知しディスプレイの明るさを昼／夜で切り替えるセンサーが装備されています。ディスプレイの明るさは昼／夜のそれぞれで調整することができます。
ジョイスティックを左右に操作して昼／夜を選択し、ジョイスティックを上下に操作して明るさを 1-6 段階で調整します。“✔”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

⚙ Machine Settings → All Reset



ディスプレイの明るさ、グリップウォーマー／シートヒーターの設定、トラクションコントロール、単位など、インフォメーションディスプレイのリセット可能なすべての設定をリセットします。

要　点

このリセットは CCU には影響しません。CCU をリセットするには、5-18 ページを参照してください。

JAU95601

D-mode（ドライブモード）

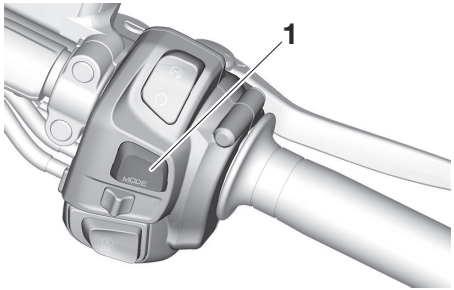
D-mode は電子制御により、2 つの走行モード（ツーリングモード“T”／スポーツモード“S”）を選択できるシステムです。

JWA15341

⚠ 警 告

走行中はドライブモードの設定変更をしないでください。

スロットルグリップを閉じ、ドライブモードスイッチ“MODE”を押して“S”（スポーツ）・“T”（ツーリング）の各モードを切り替えます。



1. ドライブモードスイッチ“MODE”

要　点

- 選択されたドライブモードは、ディスプレイに表示されます。（5-6 ページ参照）
- 選択されたドライブモードは、車両の電源がオフになっても記憶されます。
- クルーズコントロールが有効になっているときは、ドライブモードを切り替えることができません。（XP560D）

ツーリングモード“T”

ツーリングモード“T”は、さまざまな走行条件に適したモードです。
低速から高速にいたるまで、スムーズな乗り心地を楽しめます。

スポーツモード“S”

低速域から中速域にかけて、ツーリングモードよりもスポーティなエンジンレスポンスを発揮します。

5

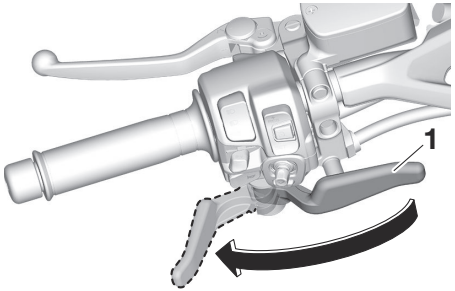
JAU63230

リヤブレーキロックレバー

エンジンを始動するとき、料金所などでの一時停車のとき、両手を離した状態で車両を停車するときなどに使用します。

リヤブレーキロックレバーを左方向へ倒すと後輪がロックされます。

リヤブレーキロックの解除は、リヤブレーキロックレバーを右方向へ戻します。



1. リヤブレーキロックレバー

JWA12501

⚠ 警 告

リヤブレーキロックレバーは走行中絶対に使用しないでください。走行中に作動させると安定性を損なう場合があります。

JCA13051

注 意

確実にリヤホイールの回転が止まった状態で、リヤブレーキロックレバーを使用してください。

JAU65583

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。 速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

要 点

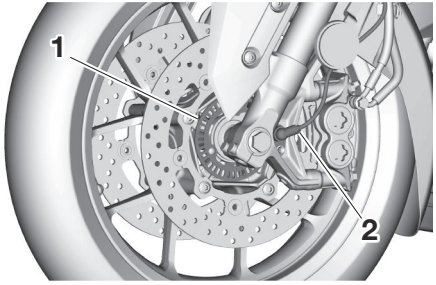
- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- 車両の電源をオンにして 10 km/h 以上の速度で走行するまで ABS は自己診断を行っています。この間、車の前方から“カ

チカチ”音がすることがありますが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

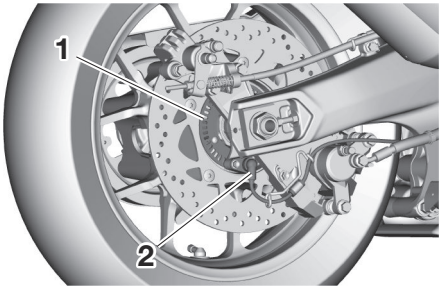
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAUA4151

BC（ブレーキコントロール）

BC は、ブレーキをかけたとき、前後輪のブレーキの油圧を調整します。このシステムには、設定が2つあります。
- OFF：標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。
- ON：ABS とコーナリングアシストブレーキの両方が有効になります。標準の ABS に加え、コーナリング中の急ブレーキ時にブレーキ圧の上昇を抑え、徐々に車両を直立姿勢に戻します。更に IMU からの情報に基づき、車両の傾斜に応じて制動力を調整することで、安定感を向上し、ホイールロックを抑制します。

要 点

熟練したライダーの場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。

5

JWA22532

⚠ 警 告

- BC を ON にしていても、コーナリング中に強いブレーキングをすると、ホイールが滑ってバランスを崩すことがあります。十分に減速してからコーナーに進入してください。
- 一般公道以外では、BC を使用しないでください。BC が正しく作動せず、事故につながる可能性があります。

JCA28740

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでブレーキコントロールシステムは作動せず、BC 表示灯 “BC” が点灯します。

JAU95623

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムにより、スリップ状態が回復するまでエンジン出力を制御します。

トラクションコントロールが有効になると、“TCS” 表示灯が点滅します。

JWA15433

⚠ 警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

トラクションコントロールシステムの設定



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

車両の電源がオンになると、トラクションコントロールも自動的にオンになります。

トラクションコントロールシステムをオフにするには、5-21 ページを参照してください。

要 点

- 車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムをオフにすると、抜け出しやすくなる場合があります。
- メインスタンドがかかっている場合は、過剰にエンジンを回転させないでください。トラクションコントロールシステムが自

動的にオフになり、リセット操作が必要になります。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-9 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

トラクションコントロールシステムは、センサーの故障が検知されたとき、片方の車輪のみが回転したときなどに、自動的にオフになります。この場合、“TCS”表示灯が点灯します。

トラクションコントロールシステムが自動的にオフになった場合は、通常走行することでリセットされます。

要 点

“TCS”表示灯が点灯したままの場合は、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

フューエルタンクキャップ

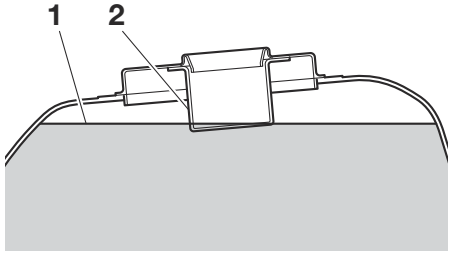
JAU98600

JWA12172

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクキャップの開閉については、3-15 ページを参照してください。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 15 L

JCA12512

注 意

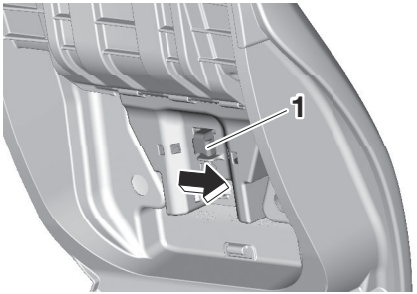
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU95992

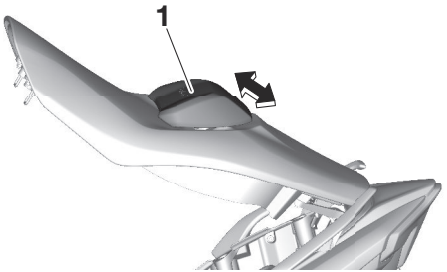
可変式ライダーバックレスト

各自の体格や好みに合わせてライディングポジションが調整できる、可変式ライダーバックレストを装備しています。(3 段階)
次のようにバックレストを調整します。

1. シートを開けます。(3-16 ページ参照)
2. レバーを押したまま、バックレストを前後にスライドさせます。



1. レバー



1. ライダーバックレスト

3. シートを閉めます。

JAU90191

書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、トランク内に保管してください。

JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

JAU95885

トランク

JWA21060

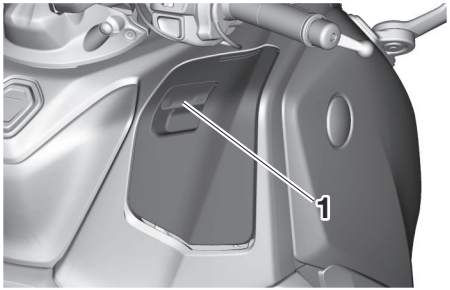
⚠警 告

以下の荷重制限を越えないでください。

- **フロントトランク: 1.0 kg**
- **リヤトランク: 5.0 kg**

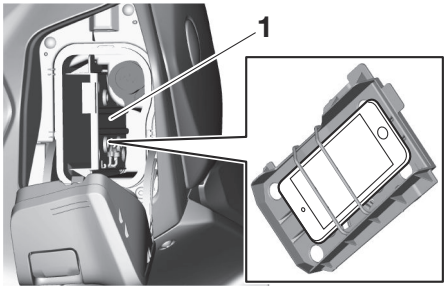
フロントトランク

レバーを引いて、トランクのリッドを開きます。



1. レバー

フロントトランクにはスマートフォンホルダーが装備されています。



1. スマートフォンホルダー

トランクを閉じるには、リッドを元の位置に戻します。

JCA27722

注 意

- **トランク内は直射日光の熱で温度が高くなります。スマートフォンなど熱の影響を受けやすいもの、消耗品、可燃性のものをトランク内に入れたままにしないでください。過度の熱にさらされると、スマートフォンが正常に動作しない場合があります。**
- **スマートフォンをトランク内に置いているときに損傷から保護するには：金属製のもの、工具、または鋭利なものをそのまま入れないでください。これらを収納する場合は、適切な緩衝材で包んでください。**

- ヤマハ発動機は、スマートフォンデバイスに生じたいかなる損害についても責任を負いません。
- スマートフォンホルダーの L/R マークに注意し、正しい向きになっているか確認してからフロントトランクに取り付けてください。

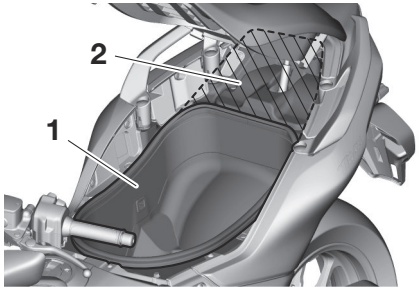
リヤトランク

リヤトランクはシートの下にあります。(3-16 ページ参照)
このトランクは、フルフェイスヘルメット 1 つ、もしくは同様サイズのノートパソコン／ケースを収納できるようになっています。

JCA16092

注 意

斜線で示した部分は、トランクではありません。シートヒンジの損傷を防ぐために、この場所に物を置かないでください。



1. リヤトランク
2. 斜線で示した部分

要 点

- リヤトランク灯は、シートを開くと点灯し、2 分後に消灯します。
- 大きさや形状によっては、リヤトランクに収納できないヘルメットもあります。
- シートを開けたまま、車から離れないでください。
- スマートキーをトランク内に入れたままにしないでください。スマートキーをトランク内に閉じ込めると、スマートキーが正常に作動しなくなることがあります。

JCA27730

注 意

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

JWA23000

⚠ 警 告

シートストッパーには高圧窒素ガスが封入されています。シートストッパーを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シートストッパーを加工または分解しないでください。**
- **シートストッパーを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シートストッパーを変形または損傷させたりしないでください。損傷があると動作しなくなります。**
- **損傷または変形したシートストッパーを、**

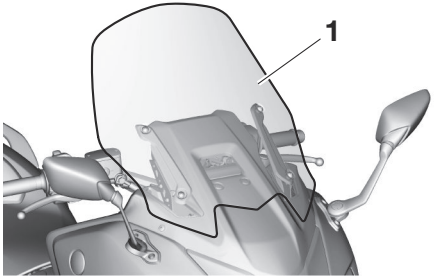
ご自分で処分しないでください。シートストッパーの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU96202

ウインドスクリーン (XP560)

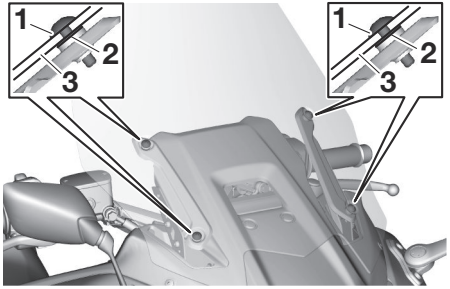
ウインドスクリーンの高さは、2 段階で調整できます。



1. ウインドスクリーン

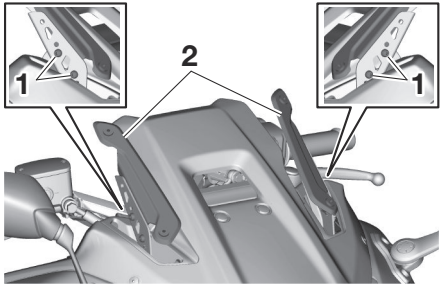
ウインドスクリーンの高さを高い位置に変更するには

1. ボルトを外し、ウインドスクリーンを取り外します。



1. ボルト
2. ワッシャー
3. ウインドスクリーン

2. ボルトを外し、ブラケットを取り外します。



1. ボルト
2. ブラケット

3. ブラケットを高い位置に取り付け、ボルトを取り付けます。ボルトを規定のトルクで締め付けます。

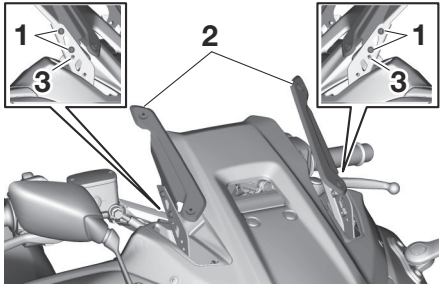
JWA21590

⚠ 警 告

ウインドスクリーンのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。

要 点

突起が孔に入っていることを確認してください。



1. ボルト
2. ブラケット
3. 突起／孔

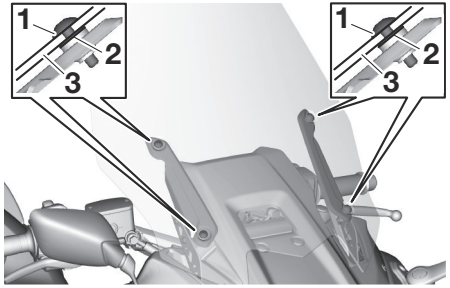
締め付けトルク：
ブラケットボルト：
7 N·m (0.7 kgf·m)

4. ウインドスクリーンを取り付け、ボルトを取り付けます。ボルトを規定のトルクで締め付けます。

JWA21590

⚠ 警 告

ウインドスクリーンのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。



1. ボルト
2. ワッシャー
3. ウインドスクリーン

締め付けトルク：
ウインドスクリーンボルト：
0.8 N·m (0.08 kgf·m)

ウインドスクリーンの高さを低い位置に変更するには

1. ボルトを外し、ウインドスクリーンを取り外します。
2. ボルトを外し、ブラケットを取り外します。
3. ブラケットを低い位置に取り付け、ボルトを取り付けます。ボルトを規定のトルクで締め付けます。

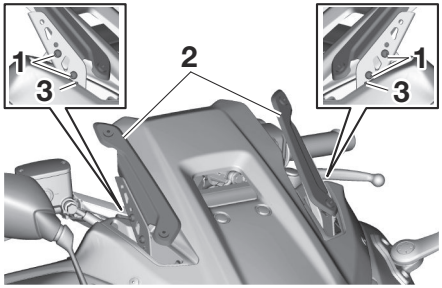
JWA21590

⚠ 警 告

ウインドスクリーンのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。

要 点

突起が孔に入っていることを確認してください。



1. ボルト
2. ブラケット
3. 突起／孔

締め付けトルク：
ブラケットボルト：
7 N·m (0.7 kgf·m)

4. ウインドスクリーンを取り付け、ボルトを取り付けます。ボルトを規定のトルクで締め付けます。

JWA21590

⚠警 告

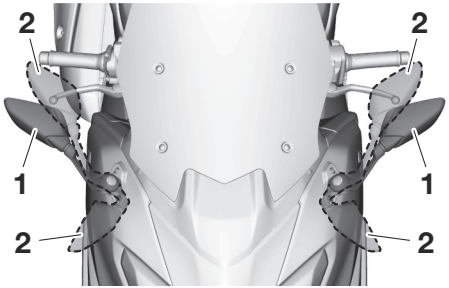
ウインドスクリーンのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。

締め付けトルク：
ウインドスクリーンボルト：
0.8 N·m (0.08 kgf·m)

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

⚠警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

リヤクッションの調整

JAU77585

JWA10222

⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

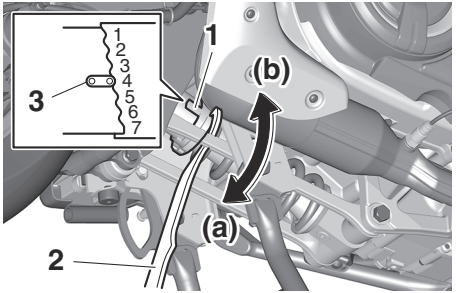
- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

XP560D

この車には、調整可能なサスペンションが装備されています。スプリングプリロードと、伸側減衰力が調整できます。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。



1. スプリングプリロードアジャストリング
2. 調整レンチ
3. インジケーター

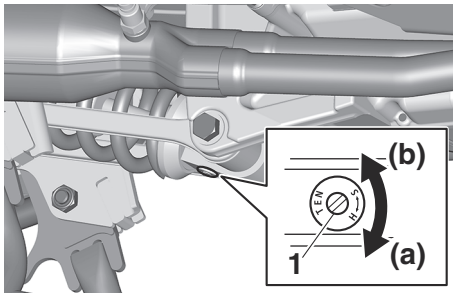
要　点

- アジャストリングの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。
- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
7段
標準
4段
最大（ハード）
1段

伸側減衰力

減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b)方向へ 2.5 回転
標準：
(b)方向へ 1.5 回転
最大（ハード）：
(b)方向へ 0 回転

要　点

アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JCA10102

注 意

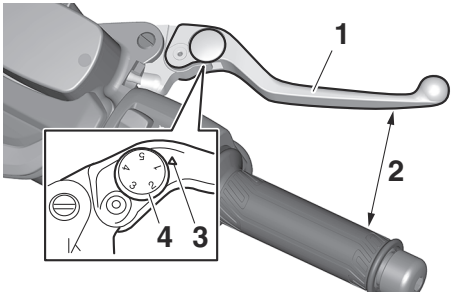
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JAU46201

ブレーキレバーの握り調整

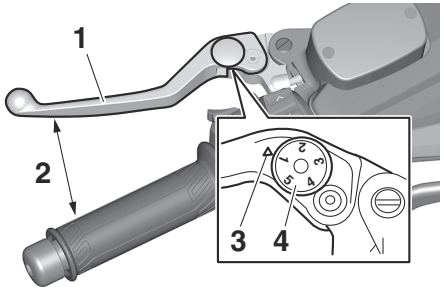
手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。

＜フロントブレーキ＞



1. フロントブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

＜リヤブレーキ＞



1. リヤブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

要　点

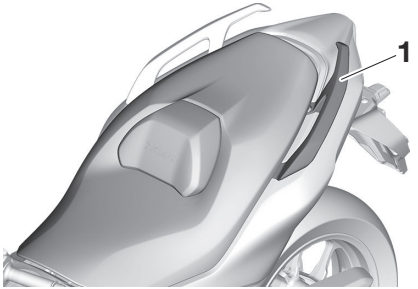
アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

5

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

JAU70642

DC コネクター

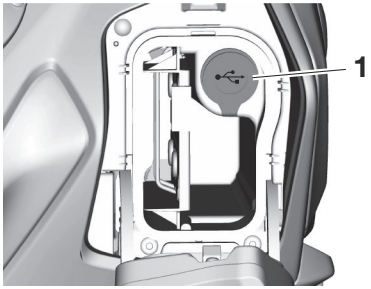
この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。

コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU96890

USB ジャック

この車には、5V の USB ジャックが搭載されています。USB ジャックはフロントトランク内にあり、車両の電源がオンのときにスマートフォンに接続するために使用できます。



1. USB ジャック

要　点

状況によっては、デバイスを USB に接続していてもデバイスのバッテリー残量が低下する場合があります。

JCA27711

注 意

USB ジャックを水や衝突から保護するために、USB ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAUA4950

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む）には次の機能があります。

- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11552

⚠警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店で車の点検を受けてください。**

JAUA4960

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチを“ ”にします。
3. 車の電源をオンにします。
4.ブレーキレバーを握ります。
5.スタータースイッチ“ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？

いいえ　はい → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.ブレーキレバーを握ります。
8.スタータースイッチ“ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　いいえ → ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　いいえ → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30173

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

ならし運転

JAU31471

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5000 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

エンジン始動

JAU95912

JCA11921

注 意

初めて車両を運転する前に、7-1 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要 点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、5-39 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスタンドを立てます。
2. リヤブレーキロックレバーで後輪をロックします。
3. 車両の電源をオンにし、エンジンストップスイッチが“ ”にセットされていることを確認します。
4. スロットルを完全に閉じます。
5. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチ“ON”を押して、エンジンを始動させます。

要 点

- XP560D
  車両の電源がオフの状態からスタータースイッチ“ON”を押すと電源がオンになり、そのまま押し続けるとエンジンを始動させることができます。
- スタータースイッチ“ON”で 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチ“ON”を押してください。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しな**

いでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

JAU68221

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU44151

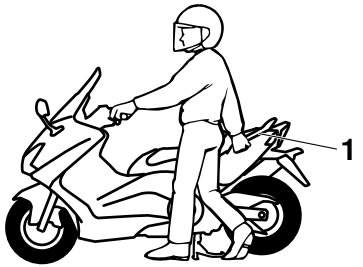
発進

JWA12261

⚠警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

JWA12271

⚠警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. リヤブレーキロックレバーを解除します。
4. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
5. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

⚠警 告

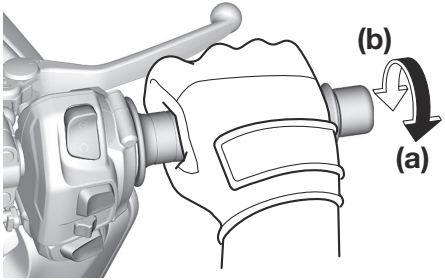
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

6. 方向指示器を消灯します。

JAU16783

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを(a)方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを(b)方向に回します。



JCA12682

注 意

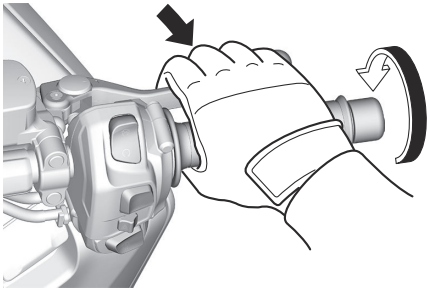
- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。**
- **不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。**

JAU16794

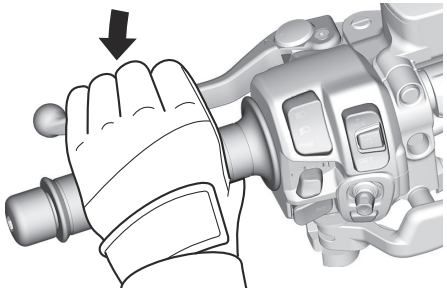
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU77962

駐車

駐車するときは、車両の電源をオフにしてエンジンを止め、スマートキーをロックしてください。

エンジン始動中、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。このとき、電源の切り忘れを防ぐため、アラームが鳴って運転者にお知らせします。アラームを止めるには、車両の電源をオフにするかサイドスタンドを上げます。

車から離れるときは、ハンドルロックとメインスタンドロックをかけ、運転者がスマートキーを携帯してください。



要　点

- スマートキーシステムがオンで、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動などが可能になります。
- 上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11582

⚠警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

7

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

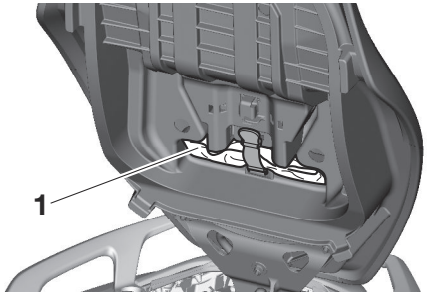
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85230

サービスツール



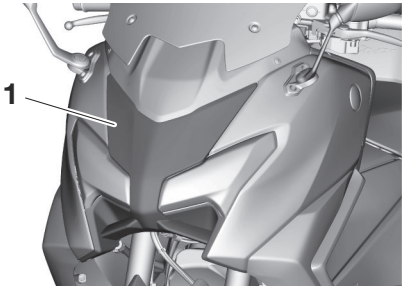
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

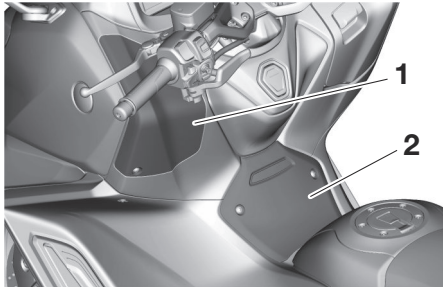
JAU18752

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



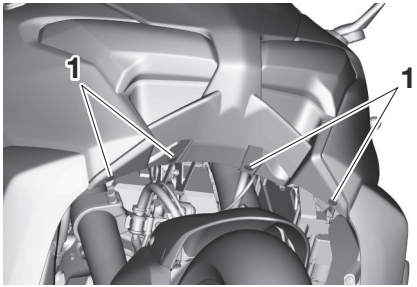
1. カバー B
2. カバー C

JAU95951

カバー A

<u>カバーの取り外しかた</u>

1. クイックファスナーを取り外します。

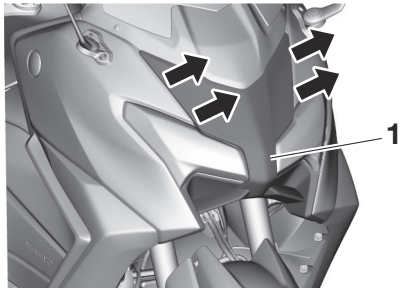


1. クイックファスナー

2. カバーの左右上部を引き出して、カバー

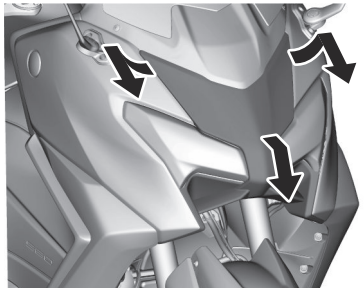
8

側面のツメを外します。



1. カバー A

3. 図のようにカバーを取り外します。





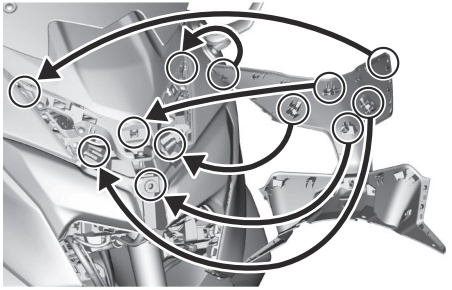
1. ゴムカバー

要　点

カバーを取り外した後、ゴムカバーが付いていることを確認してください。

カバーの取り付けかた

1. カバーの左右上部にあるツメを差し込みます。
2. 中央および下部の突起を合わせ、元の位置まで押し込んでカバーを取り付けます。

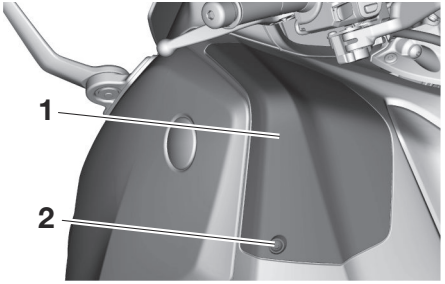


3. クイックファスナーを取り付けます。

カバー B

カバーの取り外しかた

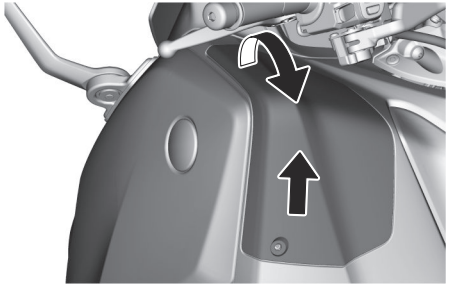
1. スクリューを取り外します。



1. カバー B
2. スクリュー

2. 図のようにカバー上部を持ち上げた後、

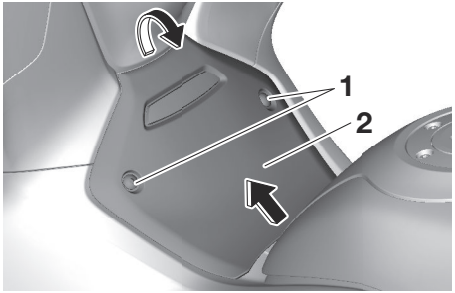
全体を上方にスライドさせて取り外します。



カバーの取り付けかた
カバーを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた
スクリューを取り外し、カバー上部を引き出してから、上方にスライドさせて取り外します。



1. スクリュー
2. カバー C

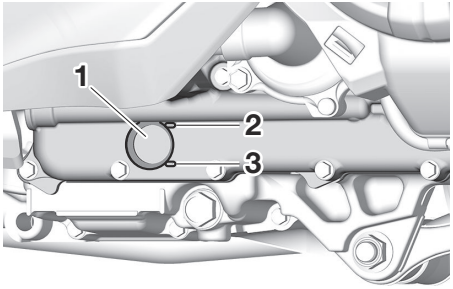
カバーの取り付けかた
カバーを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。

JAU30407

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. エンジンを始動し、2 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを止めて 2 分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

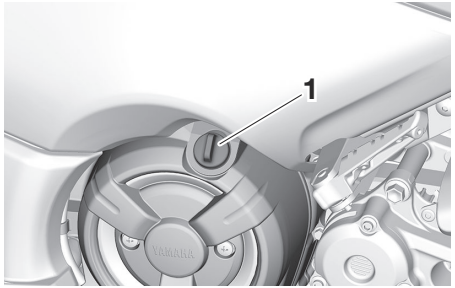


1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

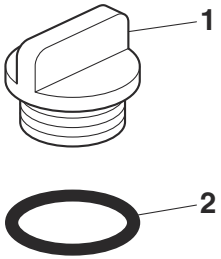
4. オイル量がロアレベル以下のときはエンジンオイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-4 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU90230

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
6000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時:
2.60 L
オイルフィルター取り外し時:
2.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
18000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。 ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要　点

オイル交換表示“OIL”が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。(5-22 ページ参照)

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

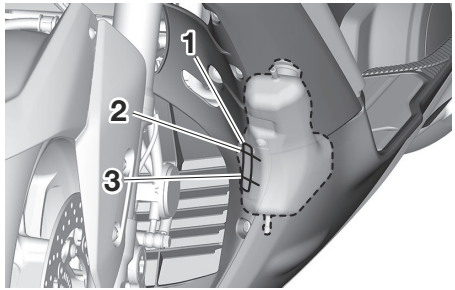
JAU57180

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

フロントカウリングの左下にある点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



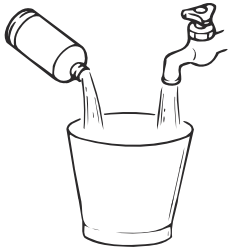
1. 冷却水点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注 意

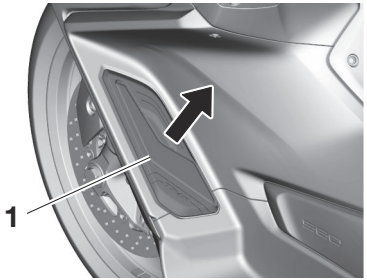
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU57190

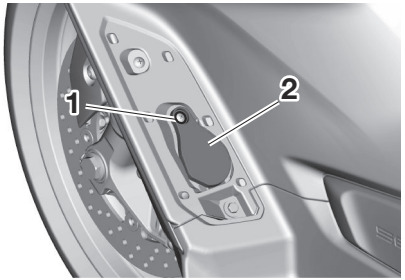
冷却水の補充

フロントカウリングの左下にある点検窓からリカバリータンク内の冷却水量を点検します。液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. 左のフットボードラバーを外し、スクリューを外してリカバリータンクカバーを取り外します。

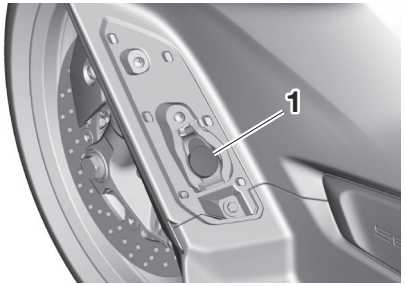


1. フットボードラバー



1. スクリュー
2. リカバリータンクカバー

2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップ、リカバリータンクカバー、フットボードラバーを取り付けます。

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU90240

エアクリーナーエレメントの交換

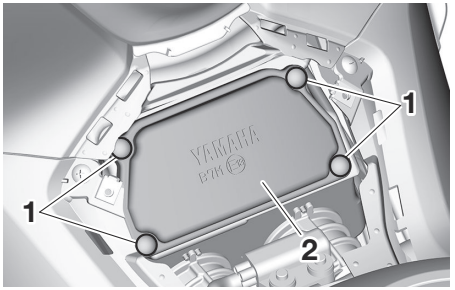
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。
また、ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースは定期的に点検、清掃をヤマハ販売店にご依頼ください。

JCA11951

注 意

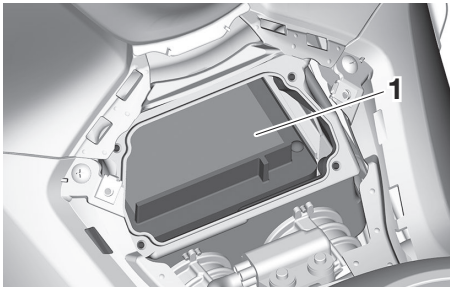
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

1. カバー C を取り外します。（8-2 ページ参照）
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント

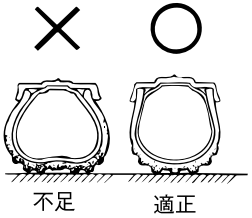
4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバー C を取り付けます。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
280 kPa (2.80 kgf/cm²)

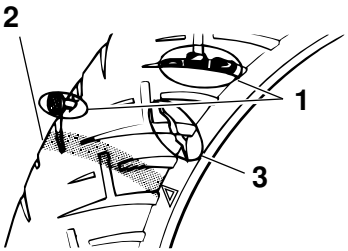
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70R15M/C 56H

後輪：
160/60R15M/C 67H

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCOOTER SC2F

後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCOOTER SC2R

JAU29162
ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検
フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11751
⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

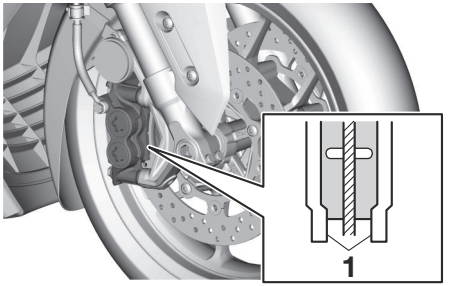
ブレーキのきき具合の点検
乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761
⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU34991
リヤブレーキロックのきき具合
リヤブレーキロックをかけ、車を押してリヤブレーキロックのききが充分であるか点検します。リヤブレーキロックのききが不充分なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU46171
ブレーキパッドの点検
ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。
＜フロントブレーキ＞
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら交換してください。



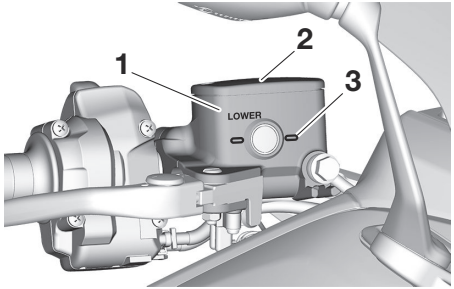
1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞
リヤブレーキパッドの摩耗の点検は、ヤマハ販売店でお受けください。

JAU44233

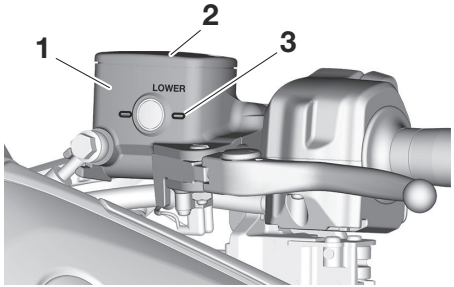
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. リザーバータンク
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. リザーバータンク
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために 2 年ごとに交換してください。**

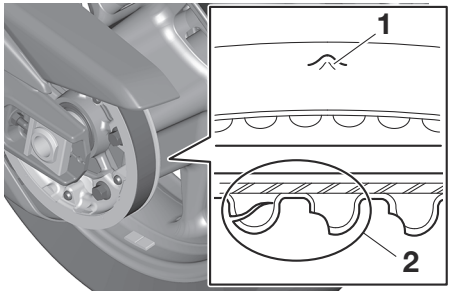
JAU88810

ドライブベルト

走行前に、ドライブベルトに摩耗や損傷、汚れがないか点検してください。
また、ドライブベルトは、定期的な点検・調整が必要です。
ドライブベルトの点検・調整は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ドライブベルトの点検

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. リヤホイールを回転させ、ドライブベルトに摩耗や損傷がないか点検します。

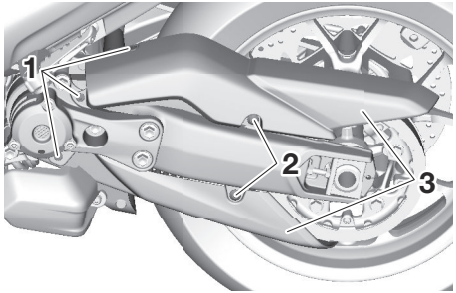


1. 石による損傷
2. 歯の損傷

3. 摩耗や損傷、ひび割れなどがある場合は、ドライブベルトの点検・交換をヤマハ販

売店へ依頼してください。

4. ドライブベルトやスプロケットに汚れがある場合は、ボルトとクイックファスナーを外し、ドライブベルトカバーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ボルト
3. ドライブベルトカバー

5. ドライブベルトとスプロケットを清掃します。

JCA26970

注 意

ドライブベルトに泥や砂が溜まらないようにしてください。泥や砂が溜まると、摩耗が早まる場合があります。

6. ドライブベルトカバーを元の位置に取り付け、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。 爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA23660

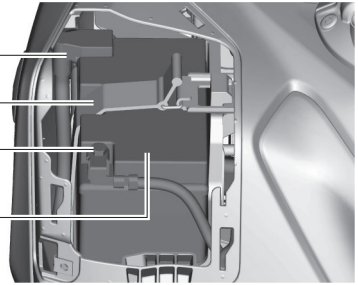
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 Vです。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。**

JAU98790

バッテリーの取り外し

1. 車両の電源をオフにします。
2. カバー B を取り外します。（カバーの取り外しは 8-2 ページ参照）
3. バッテリーバンドを外します。
4. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. +リード線
2. バッテリーバンド
3. −リード線
4. バッテリー

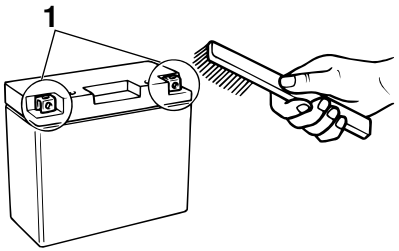
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

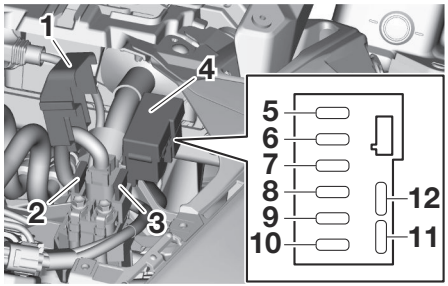


1. ターミナル

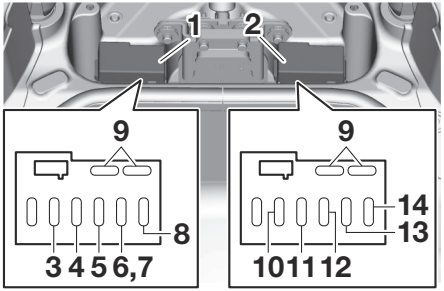
JAU96076

ヒューズ交換

ヒューズボックス 1 とメインヒューズはウインドスクリーンの下にあります。
ヒューズボックス 2 とヒューズボックス 3 はシートの下にあります。



1. スターターリレーカバー
2. スペアメインヒューズ
3. メインヒューズ
4. ヒューズボックス 1
5. ブレーキランプヒューズ (XP560D)
6. クルーズコントロールヒューズ (XP560D)
7. テールランプヒューズ
8. ヘッドライトヒューズ
9. ABS モーターヒューズ
10. ABS ソレノイドヒューズ
11. スペアヒューズ (XP560D)
12. スペアヒューズ



1. ヒューズボックス 2
2. ヒューズボックス 3
3. アクセサリーヒューズ
4. ABS コントロールユニットヒューズ
5. シグナルヒューズ
6. ウインドスクリーンモーター／シートオープンヒューズ (XP560D)
7. シートオープンヒューズ (XP560)
8. イグニッションヒューズ
9. スペアヒューズ
10. ラジエターファンモーターヒューズ
11. フューエルインジェクションヒューズ
12. バックアップヒューズ 2
13. バックアップヒューズ
14. 電子制御スロットルバルブヒューズ

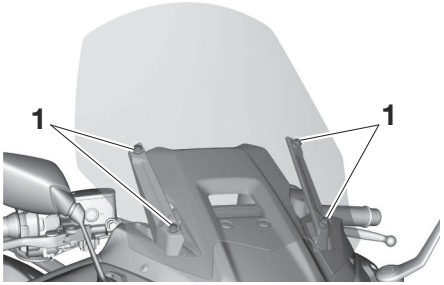
要　点

メインヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外す必要があります。

ヒューズボックス 1 とメインヒューズを交

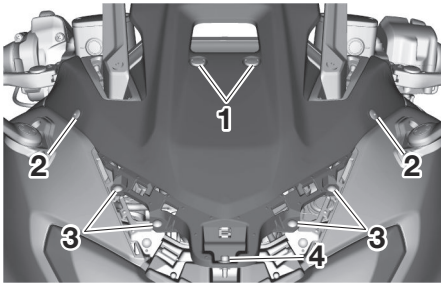
換する場合は、以下の手順で行ってください。

1. カバー A を取り外します。(8-2 ページ参照)
2. ボルトを外し、ウインドスクリーンを取り外します。



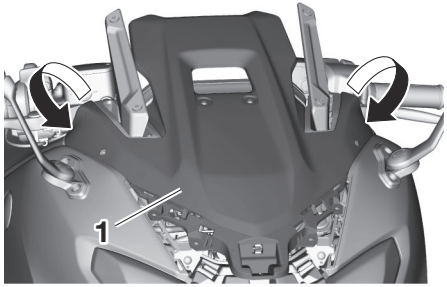
1. ボルト

3. ボルト、ワッシャー、スクリュー、クイックファスナーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ボルト
3. スクリュー
4. ボルト／ワッシャー

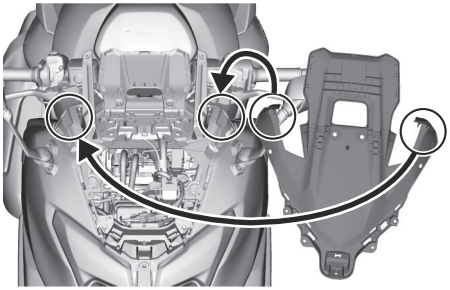
4. 図のようにインナーパネルを取り外します。



1. インナーパネル

取り付け:

1. インナーパネルの左右上部のある突起を合わせ、元の位置に取り付けます。ボルト、ワッシャー、スクリュー、クイックファスナーを取り付けます。

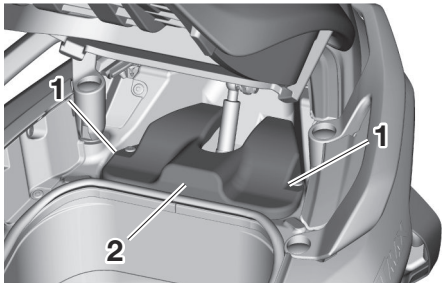


2. ウインドスクリーンを元に位置に取り付け、ボルトを取り付けます。
3. カバー A を取り付けます。

ヒューズボックス 2 とヒューズボックス 3 を交換する場合は、以下の手順で行ってください。

1. シートを開けます。(3-16 ページ参照)
2. クイックファスナーを外して、カバーを

取り外します。



1. クイックファスナー
2. カバー

取り付け:

1. カバーを元に位置に取り付け、クイックファスナーを取り付けます。
2. シートを閉めます。

ヒューズが切れた時は、以下のように交換します。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：

メイン:
40.0 A
アクセサリー:
7.5 A
ヘッドライト:
7.5 A
テールランプ:
7.5 A
シグナル:
10.0 A
イグニッション:
7.5 A
ラジエターファンモーター:
15.0 A
フューエルインジェクション:
7.5 A
ABS コントロールユニット:
7.5 A
ABS モーター:
30.0 A
ABS ソレノイド:
15.0 A
バックアップ:
15.0 A
バックアップ 2:
10.0 A
電子制御スロットルバルブ:
7.5 A
ブレーキランプ:
2.0 A (XP560D)
クルーズコントロール:
2.0 A (XP560D)
ウインドスクリーンモーター / シートオープン:
20.0 A (XP560D)
シートオープン:
20.0 A (XP560)

JCA12862

注 意

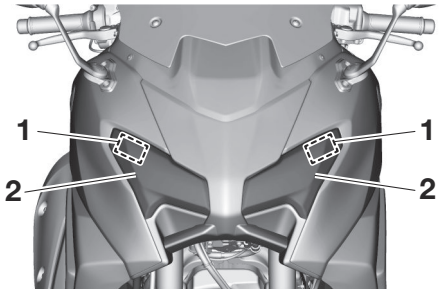
- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を**

強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

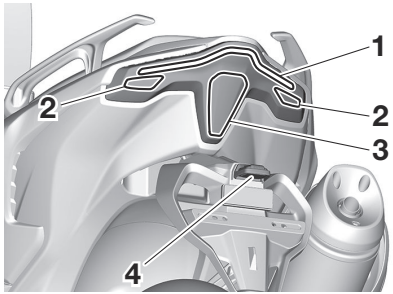
3. 車両の電源をオンにし、それぞれの電気装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU74912



1. 方向指示灯（前）
2. ヘッドライト/マーカーランプ



1. テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. ブレーキランプ
4. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-15ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU29571
運行において異常が認められた箇所の点検
運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU98611
こんなときは
こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？
次の項目を確認してください。
1. 車両の電源はオンになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“ ”になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ“ ”を押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチ“ ”を押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？
スタータースイッチ“ ”を押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。
1. 車両の電源はオンになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“ ”になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ“ ”を押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・・
- ヒューズ切れが考えられます。8-15 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？
次の順序で確認してください。
1. 車両の電源がオンになっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・・
- ヒューズ切れが考えられます。8-15 ページを参照してヒューズを点検してください。

● ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？
燃料計でガソリン量を確認してください。
燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
上記のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示“V-BELT”が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。
交換後、リセット操作をすると V ベルト交換表示は消灯します。

JCA12531

注 意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、オイル交換表示“OIL”が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。（推奨エンジンオイルについては、9-4 ページ参照）
交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12311

注 意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

走行中、ABS 警告灯 “ (ABS) ” が点灯または点滅したときは？

ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけて、直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

● スマートキーがロックの状態になっていませんか？3-8 ページを参照して、スマートキーをアンロックの状態に切り替えてください。
● スマートキーの電池が消耗していませんか？車両の電源をオンする時にスマートキーシステム表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-9 ページ参照）
● 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-5 ページを参照してください。
● スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？電池の取り付け状態を確認してください。（3-9 ページ参照）
● 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
● 壊れたスマートキーを使用していませんか？3-7 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマー

トキーシステムは作動しません。
- バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、8-14 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。
スマートキーを使わずにエンジンを始動する方法については、8-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。
メカニカルキーを使用してシートのロックを解除する方法については、3-16 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピピピピ」とアラームが鳴ったときは？

故障ではありません。
エンジン始動中、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 5 秒間鳴ります。

JCA22550

注 意

サイドスタンドを出してエンジンを停止させたときは、必ず車の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要　点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU95981

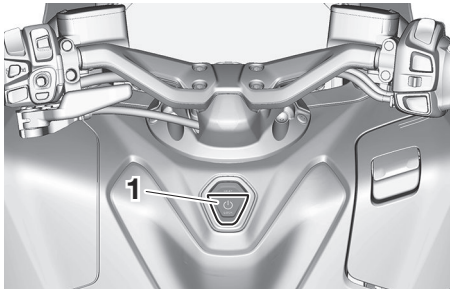
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことでスマートキーシステムをオンにすることができます。

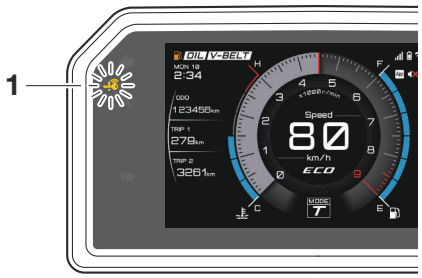
要　点

各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。

1. 車を安全な場所に停車させます。
2. スマートキーシステム表示灯が 1 回点滅するまでセンタースイッチの“⏻/LOCK”部分を 5 秒間押します。この操作を 3 回行うと、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。

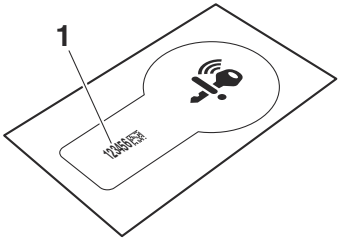


1. センタースイッチ“⏻/LOCK”部分



1. スマートキーシステム表示灯“ ”

3. スマートキーシステム表示灯消灯後、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を使用し、ID 番号カードを参照して ID を入力します。



1. ID 番号

4. ID の入力数値は、スマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。
操作例（ID:123456 を入力するとき）
センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押し続けます。
↓
スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。
↓



× 1

1 回点滅したところでセンタースイッチの“⏻/LOCK”部分をはなします。
↓
1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。
↓
再びセンタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押し続けます。
↓



× 2

2 回点滅したところでセンタースイッチの“⏻/LOCK”部分をはなします。
↓
2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。
↓
以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。正しい 6 桁の ID を入力すると、スマートキーシステム表示灯が 10 秒間点灯します。

要　点

下記のどちらかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「2」からやり

直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分の操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を 9 回以上点滅させたとき

5. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にセンタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押すと、電源がオンになります。

要　点

- 入力した 6 桁の ID が間違っていた場合は、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間速い点滅をし、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「2」からやり直してください。
- エマージェンシーモードで電源をオンにした後に電源オフしたときは、ハンドルを左に切って、センタースイッチの“⏻/LOCK”部分を押すことでハンドルロックが可能となります。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

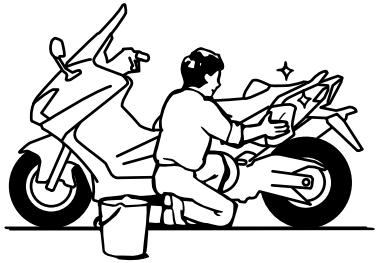
JAU27977

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ**

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

キャストホイールの取り扱い

JAU27991

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

⚠警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU98590

ウインドスクリーンの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドスクリーンの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA22090

⚠警 告

ウインドスクリーンとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。 物を置かないでください。

JCA28210

注 意

- **ウインドスクリーンにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドスクリーンは使用しないでください。**

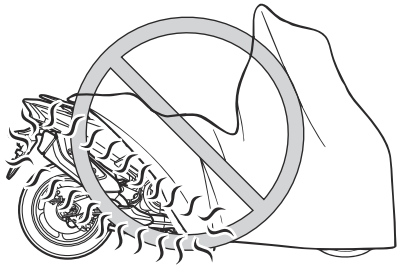
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





9

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力して

ホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索



製品仕様

寸法:
- 全長:
  - 2195 mm
- 全幅:
  - 780 mm
- 全高:
  - 1415/1470 mm (XP560)
  - 1415/1525 mm (XP560D)
- シート高:
  - 800 mm
- 軸間距離:
  - 1575 mm
- 最低地上高:
  - 135 mm

重量:
- 車両重量:
  - 219 kg (XP560)
  - 221 kg (XP560D)
- 乗車定員:
  - 2 名

性能:
- 最小回転半径:
  - 2.8 m

エンジン:
- 行程:
  - 4 ストローク
- 冷却方式:
  - 水冷
- 動弁機構:
  - DOHC
- 配列:
  - 直列
- 気筒数:
  - 2 気筒
- 総排気量:
  - 561 cm^3

フロントブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式ダブルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式シングルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 120/70R15M/C 56H
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX SCOOTER SC2F

リヤタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 160/60R15M/C 67H
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX SCOOTER SC2R

エレクトリカル:
- 電圧:
  - 12V

バルブワット数:
- ヘッドライト:
  - LED
- ブレーキ/テールランプ:
  - LED
- 方向指示灯（前）:
  - LED
- 方向指示灯（後）:
  - LED
- 番号灯:
  - LED

マーカーランプ:
LED

エンジンオイル:

推奨オイル:
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量:

オイル交換時:
2.60 L
オイルフィルター取り外し時:
2.90 L

冷却水容量:

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路:
1.50 L

バッテリー:

バッテリー型式:
YTZ12S
バッテリー容量:
12 V, 11.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー/型式:
NGK/LMAR7G
プラグギャップ:
0.7–0.8 mm

JAU36645

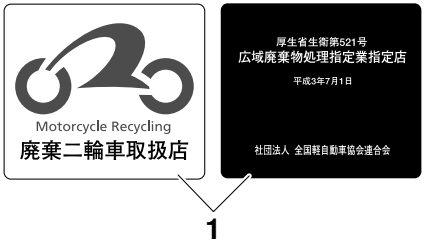
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

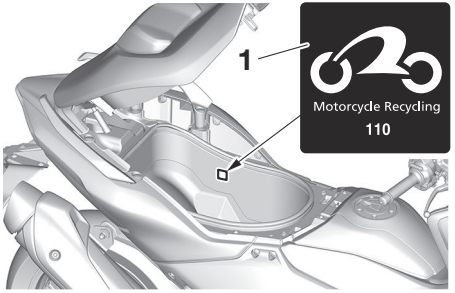
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム

https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ

https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

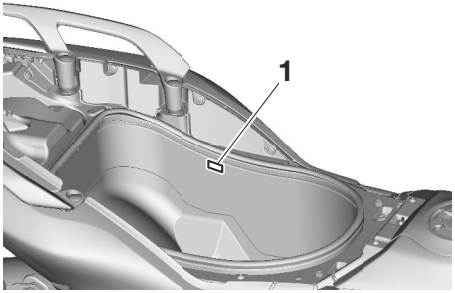
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-BSV

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、リヤトランク左側に貼り付けてあります。

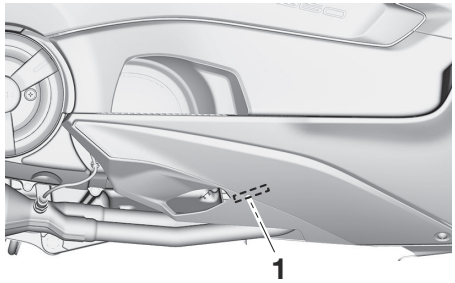


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
TMAX560 (XP560)
TMAX560 TECH MAX (XP560D)
モデルラベル
製品仕様を示しています。
O
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



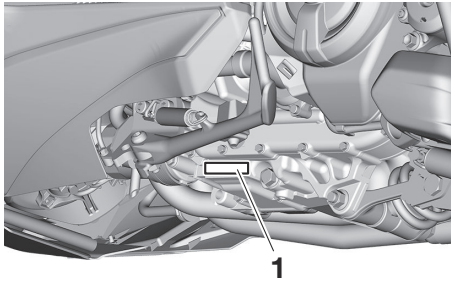
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

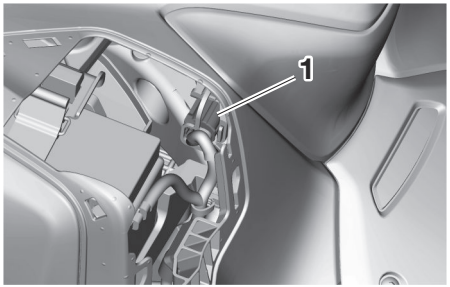


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAUA1211

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン/モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法的義務の履行や係争事案対応のため

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ユーザー情報

ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp
こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。
関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

あ
あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について..... 9-4
い
ESS（緊急停止信号）システム.....3-3
イグニッションサーキットカッ
トオフシステム.....5-39
う
ウインドスクリーン (XP560)..... 5-33
ウインドスクリーンの取り扱い.....9-3
運行において異常が認められた
箇所の点検.....8-19
え
エアクリーナーエレメントの交換.....8-8
ABS..... 5-26
ABS 警告灯.....5-4
エンジンオイル.....8-4
エンジン警告灯.....5-4
エンジン始動.....7-1
エンジンストップスイッチ..... 5-2
エンジンのかかり具合、異音の
点検 8-6
か
加速と減速.....7-3
カバーの取り外し、取り付け.....8-2
可変式ライダーバックレスト.....5-30
環境・住民の方との調和のために..... 1-7
き
キャストホイールの取り扱い.....9-2
く
クルーズコントロールシステム
(XP560D).....3-1
クルーズコントロールスイッチ
(XP560D).....5-2
け
警告灯と表示灯.....5-4
原動機番号.....11-3
こ
故障診断コネクター..... 11-3
こんなときは.....8-19
さ
サービスツール.....8-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 11-2
サイドスタンド.....5-39
し
シートの開閉.....3-16
自動電源オフシステム..... 3-13
車体各部の給油脂状態の点検.....8-13
車台番号.....11-2
車両情報.....11-2
車両情報の記録に関して..... 11-4
車両の電源オフ.....3-12
車両の電源 ON／スターター
イッチ 5-2
車両の特徴.....3-1
ジョイスティック／ホームボタン.....5-3
初期設定..... 4-3
書類入れ.....5-31
す
スタンディングハンドル..... 5-38
スマートキーおよびメカニカル
キーの取り扱い.....3-7
スマートキーシステムのエマー
ジェンシーモード..... 8-21
スマートキーシステムの概要.....3-5
スマートキーシステムの作動範囲..... 3-6
スマートキーシステム表示灯.....5-5
スマートキー操作のしかた..... 3-8
スマートキーの電池交換のしかた..... 3-9
スマートフィーチャー..... 4-1
せ
接続エラーが発生したときは.....4-9
洗車..... 9-1
た
タイヤ..... 8-9
タイヤ空気圧警告灯 (XP560D)..... 5-5
ち
駐車..... 7-4
て
DC コネクター.....5-38
TPMS（タイヤ空気圧監視シス
テム）（XP560D).....3-4
D-mode（ドライブモード）.....5-25
ディスプレイ.....5-6
低速、加速の状態の点検..... 8-6
点検整備の実施.....8-1
電話..... 4-8
と
灯火装置および方向指示灯の点
検 8-18
ドライブベルト.....8-12
トラクションコントロールシス
テム 5-28
トラクションコントロールシス
テム表示灯.....5-5

索引

トランク.....5-31

な

ナビゲーションシステム：
Garmin Motorize.....4-6
ならし運転.....7-1

に

日常点検箇所／点検内容..... 6-1
日常点検の実施.....6-1
二輪車を廃棄する場合は？.....11-1

ね

燃料..... 5-30

は

ハザードスイッチ.....5-2
バックミラー.....5-35
発進..... 7-2
バッテリー.....8-14
ハンドルスイッチ.....5-1
ハンドルロック解除と車両の電源オン 3-11
ハンドルロックのかけかた.....3-14

ひ

BC（ブレーキコントロール）.....5-27
ヒューズ交換.....8-15

ふ

フューエルタンクキャップ.....5-29
フューエルタンクキャップの開閉 3-15
ブレーキ..... 7-3
ブレーキ液量の点検..... 8-12
ブレーキコントロールシステム表示灯 5-5
ブレーキパッドの点検..... 8-11
ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検 8-11
ブレーキレバーの握り調整.....5-37

へ

ヘッドライト上向き表示灯..... 5-4
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ.....5-1

ほ

方向指示器スイッチ..... 5-1
方向指示器表示灯.....5-4
ホーンスイッチ.....5-2
保管のしかた.....9-3
歩行者と他の車のために..... 1-6
ポップアップメニューシステム.....5-12

め

メインスタンドロックのかけかた 3-14

も

モデルラベル.....11-2

や

Yamaha Motorcycle Connect アプリ 4-2

ゆ

USB ジャック.....5-38

り

リヤクッションの調整..... 5-36
リヤブレーキロックのきき具合.....8-11
リヤブレーキロックレバー.....5-26

れ

冷却水..... 8-6

Yamaha Motorcycle Connect

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-100-BSV

PRINTED IN JAPAN
2024.12-0.3×1 CR (J)